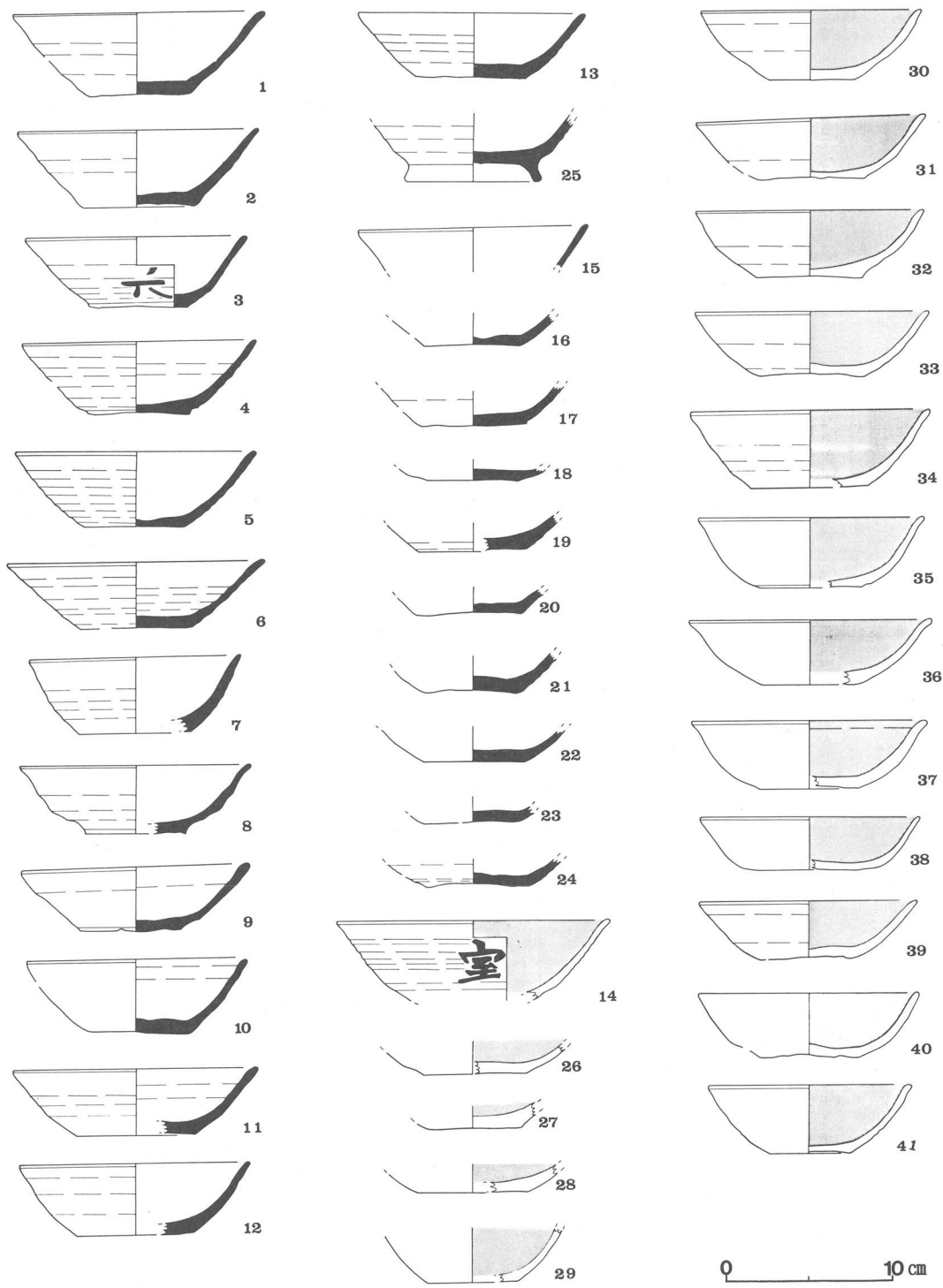




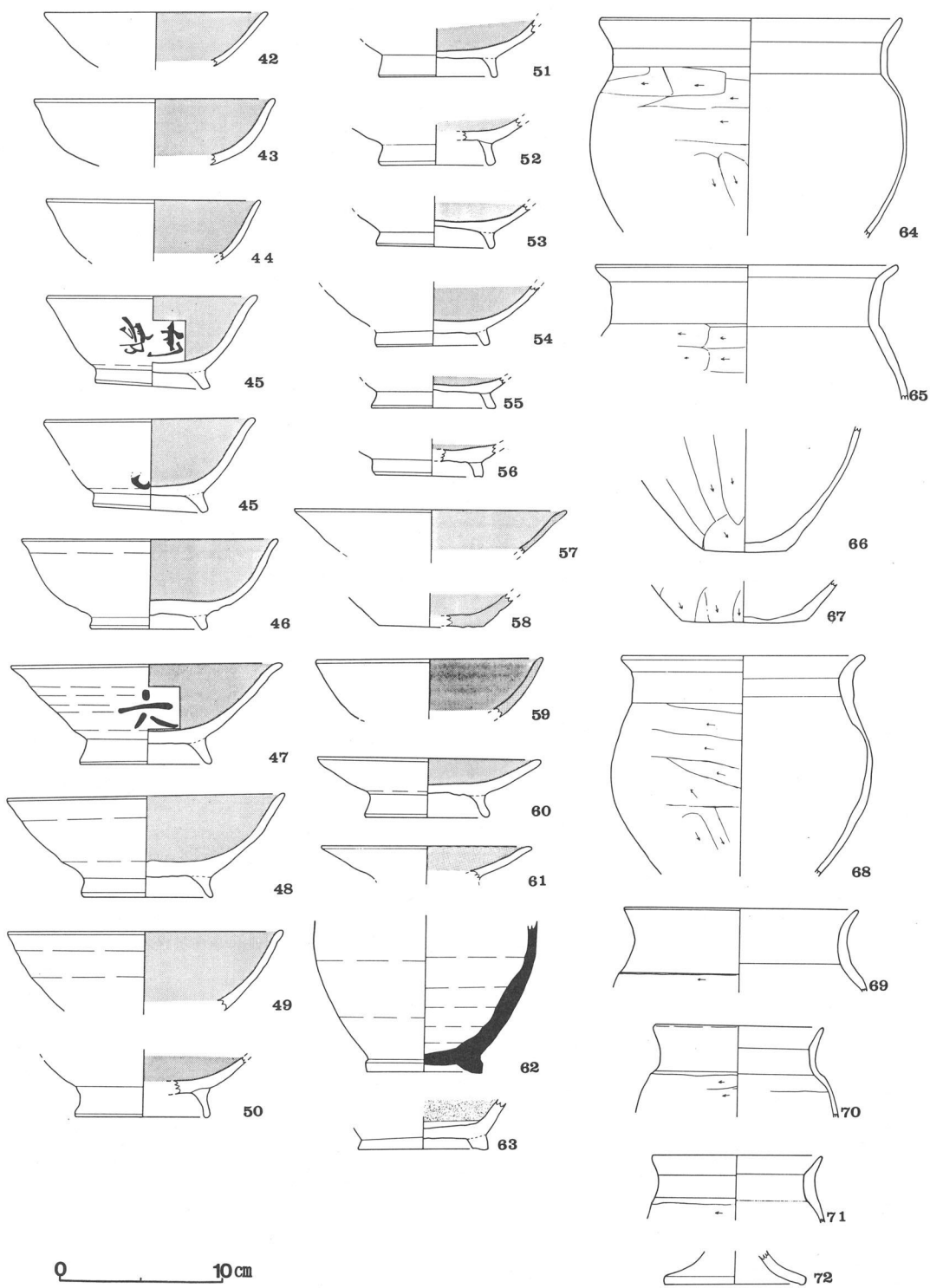
写真218 H6号住居址遺物出土状況（北より）



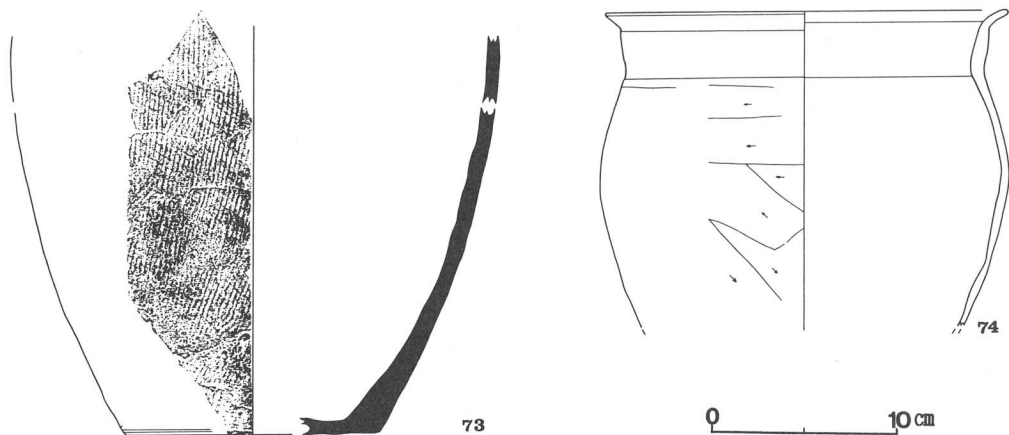
写真219 H6号住居址掘り方（南より）



第93图 H6号住居址出土遗物实测图(1)



第94图 H6号住居址出土遺物実測図(2)



第95図 H 6 号住居址出土遺物実測図（3）

遺物

全点数74個を実測し、土器の総重量10.98Kgと多くの土器が出土している。鉄滓300gも出土している。

土師器は杯・碗・皿・甕・小型甕がある。須恵器は杯・長頸壺・甕がある。灰釉陶器は長頸壺・短頸壺がある。

土師器杯はミガキ黒色処理される。底部は回転糸切りのままのものが多いが、ヘラケズリ調整するものも5個体あった。土師器碗形土器も杯同様に内面ミガキ黒色処理される。器形は様々で、大・小、浅い・深いがある。高台の付く皿は全体に内湾気味に開いている。甕形土器は口縁部形が「コ」字形である。

須恵器杯は小さな底部から長い口縁が伸び器高の深いものと、短い口縁の浅いものがある。調整は内外面ロクロ調整で底部は回転糸切りである。須恵器甕も図示した四耳壺の他に、大甕の肩に付く把手や広口の甕の破片がある。

灰釉陶器は長頸壺の底部や短頸壺の胴部がある。

墨書土器が多く須恵器杯「六」、土師器杯に「室」、土師器碗に「刑部」（欠損して読めないが反対側に他の墨書あり）・「六」がある。「刑部」は『和名抄』書かれた佐久八郷の一つであり、この地が「刑部」郷と関連する有力な根拠となる史料である。（1987 井出正義『岸野村誌』）

時期は9世紀中頃に位置づけられよう。

7) H7号住居址

遺構

I地区南側Kえー4グリットにある。東壁をM4号溝状遺構が壊している。長軸を東西に持ち、東西4.08m 南北3.72mを測る。壁残高は24cmである。主軸方位はN-12°-Wを測る。

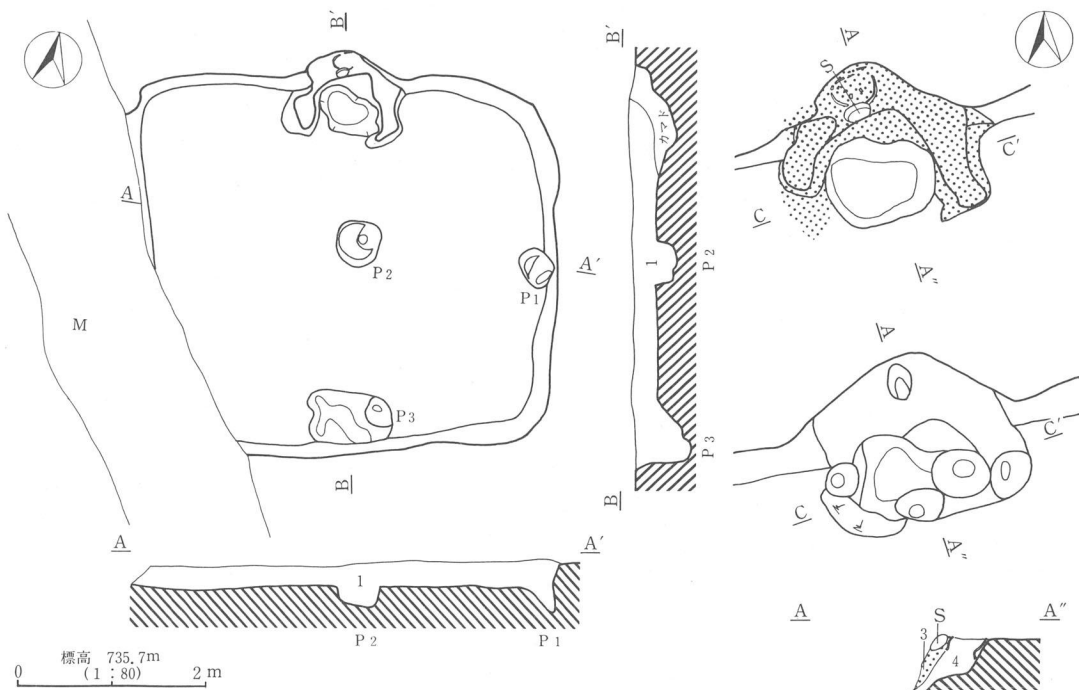
床面は締まる。掘り方はない。柱穴は東壁中央と住居址中央、南壁下中央にある。東西に支柱穴を2本持つパターンで西は壊されたものと思う。

覆土は黒褐色土である。

カマドは北壁中央にあり、袖と煙道が残る。土師器武蔵甕を逆位にして煙道としている。長さ88cm、幅110cmで明赤褐色粘土を使用して構築している。

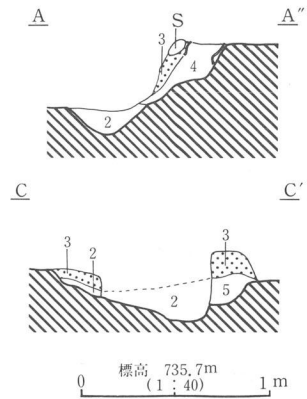


写真220 H7号住居址(北より)



H7 土層説明

1. 黒褐色土 (10YR 2/3) バミス・ローム多量に含む。砂質。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 赤褐色土 (2.5YR 4/8) 粘土粒を含む。
3. 明赤褐色土 (5 YR 7/6) 赤褐色土粘土主体
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 赤褐色粘土を含む。
5. 暗褐色土 (10YR 3/4) 赤褐色粘土ブロックを含む。
ローム粒子を多量に含む。



第96図 H7号住居址実測図

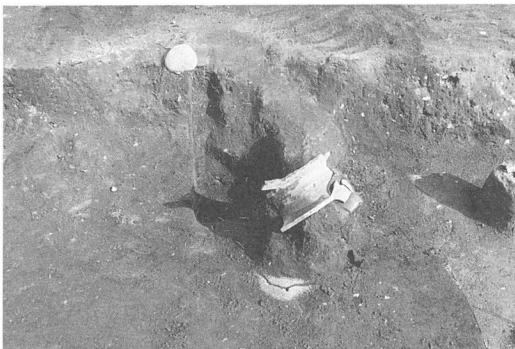


写真221 H7号住居址カマド(南より)

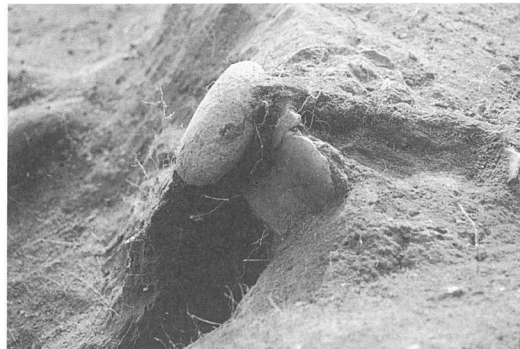


写真222 H7号住居址カマド(東より)



写真223 H7号住居址カマド（北より）



写真224 H7号住居址カマド（南より）

遺物

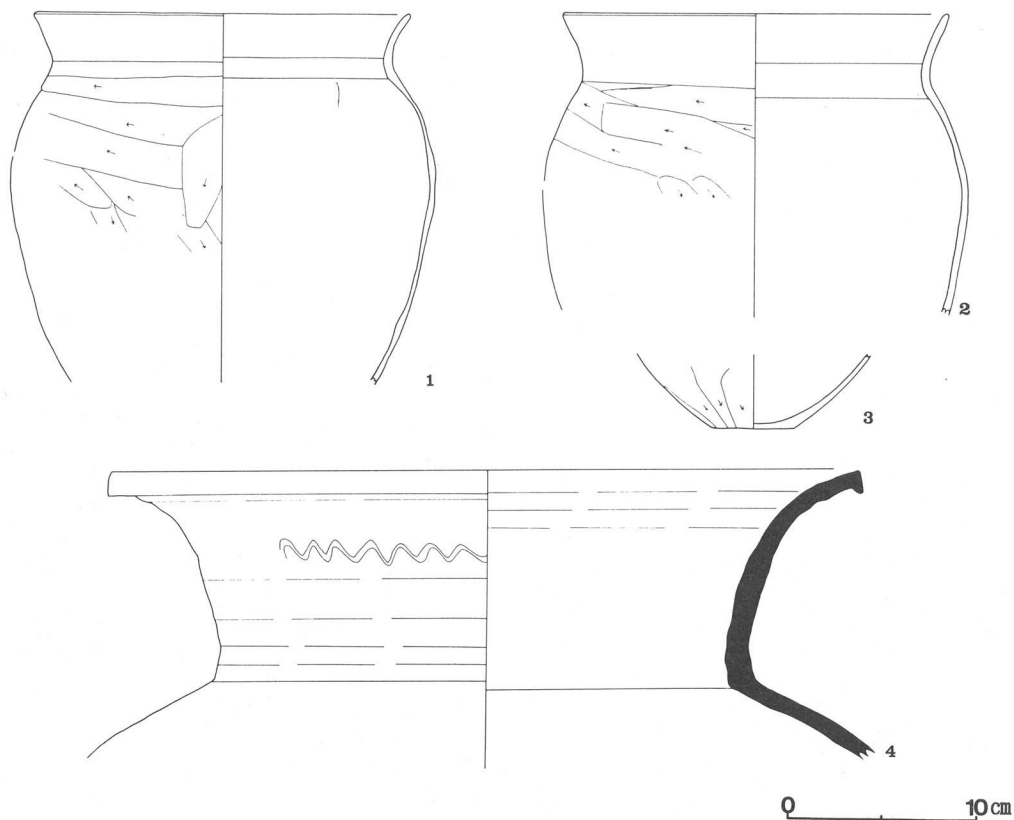
土器2.17Kg と刀子が出土している。

土器は土師器杯・甕・台付き甕、須恵器は杯・杯蓋・甕がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される。武蔵甕は口縁部形が「く」字形を呈する。

須恵器甕は大甕で口縁が大きく外反するものである。

これらより時期は9世紀前半に位置づけられる。



第97図 H7号住居址出土遺物実測図

8) H8号住居址

遺構

南端Kうー7グリットにあり、M4号溝状遺構に北西からカマドの一部と南壁中央まで壊され、東西方向の暗渠にも壊されている。南東でH9号住居址を切っている。東西に長軸を持ち、4.68m×3.8mを測る。壁残高が20cmを測る。主軸はN-15°-Wを測る。

床面は締まる。炭化材が床面に残っていた。掘り方は掘り込みがなく変化がない。

柱穴は支柱穴4本が検出され、北側のピットが北壁に接するものである。2.4×2.8mに柱が配される。ピットは径24~40cm深さ62~64cmを測る。

土坑は一辺80cmの隅丸長方形で深さは18cmを測る。

覆土は黒褐色土である。

カマドはM4に壊され火床部が残っているだけだった。

遺物

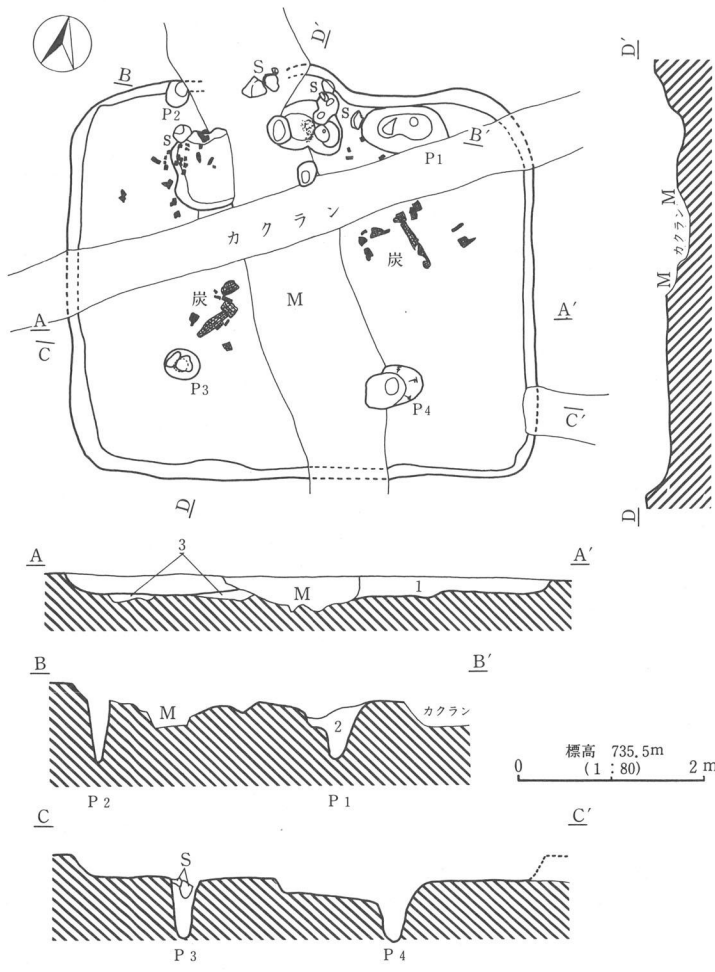
土器が5.79Kg出土している。

土師器は杯・碗・甕・小型甕があり、須恵器は杯・杯蓋・長頸壺・大甕・四耳壺がある。

土師器杯・碗は内面ミガキ黒色処理される。土師器甕は3種あって、武蔵甕が多いが、12の白色で口縁の外反するもの、14・15・16のロクロ甕がある。



写真225 H8号住居址（南より）



- H8 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム粒を多く含む。
 2. 暗褐色土層 (10YR 3/4)
ローム粒・ロームブロックを
多量に含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR 2/2)
バミス・ローム粒を含む。
ローム 2cm 程度上面に貼る。

第98図 H8号住居址実測図



写真226 H8号住居址炭化材(西より)

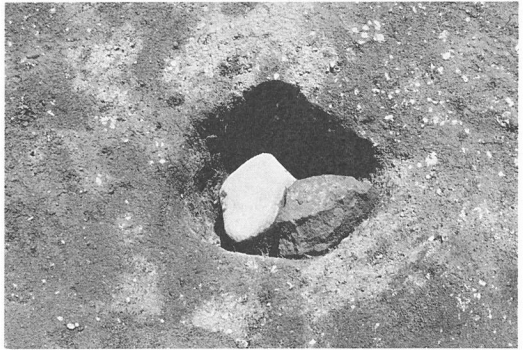
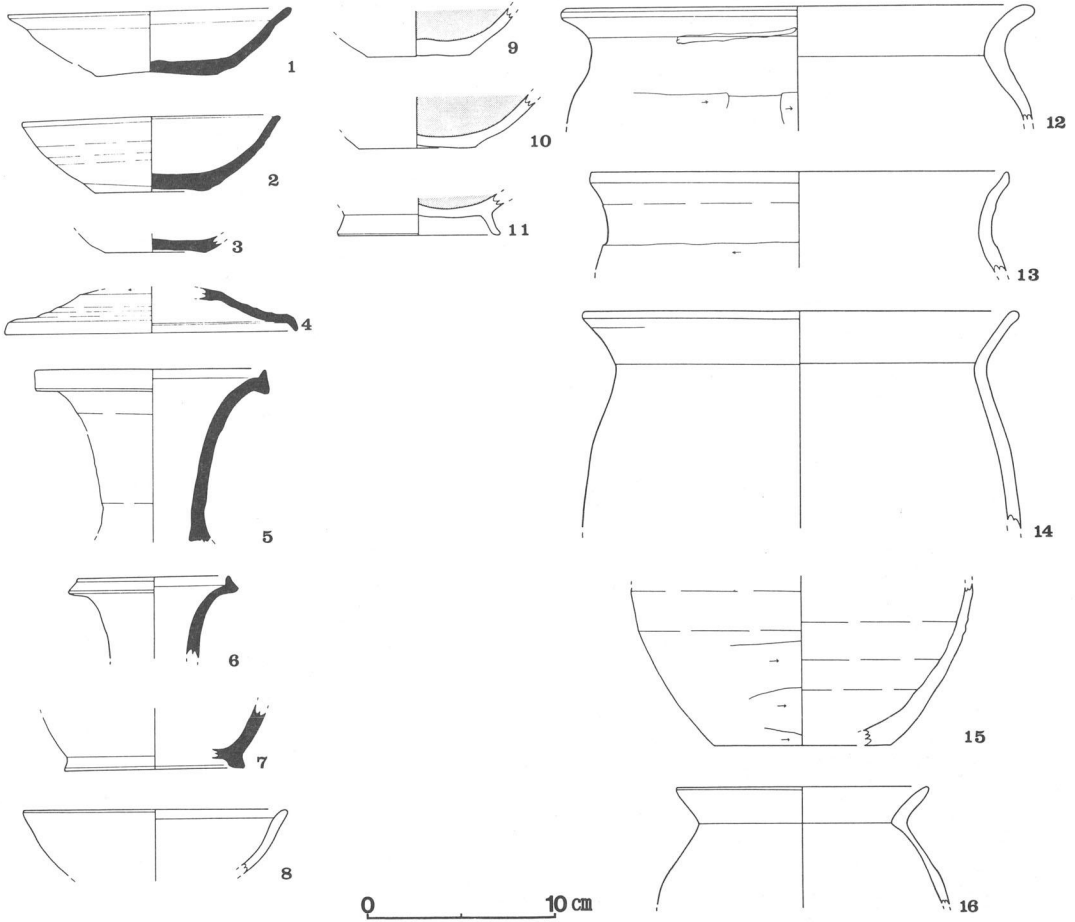


写真227 H8号住居址 P3(南より)



第99図 H 8 号住居址出土遺物実測図

須恵器杯はロクロ調整の底部回転糸切りである。

これらより 9 世紀代後半であろう。



写真228 H 8 号住居址（北より）



写真229 H 8 号住居址（南より）

9) H9号住居址

遺構

南端にあり、Kうー7グリットにある。北西上面をH8号住居址に切られる。東壁側は小河川により一部壊されている。壁残高がほとんどないので残りの状態は良くない。

生活面は削平され、明確に確認できなかった。床下の掘り込みがないタタキの床である。

柱穴は6個検出され、P1からP4が主柱穴である。ピットの径40~80cm深さ60~80cmを測る。南壁下に入出口のピット、住居址の中央にもある。

土坑は南西隅にD1があり、長径108cm短径88cm深さ33cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、火床部が残り、長さ106cm幅116cmを測る。

遺物

土器7.42Kgと鉄製の先端が尖がり断面四角形の釘?がある。

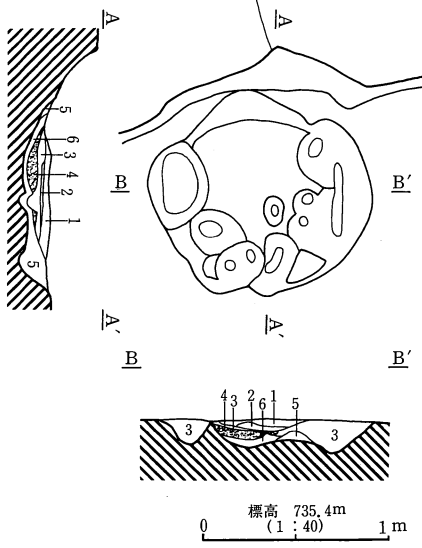
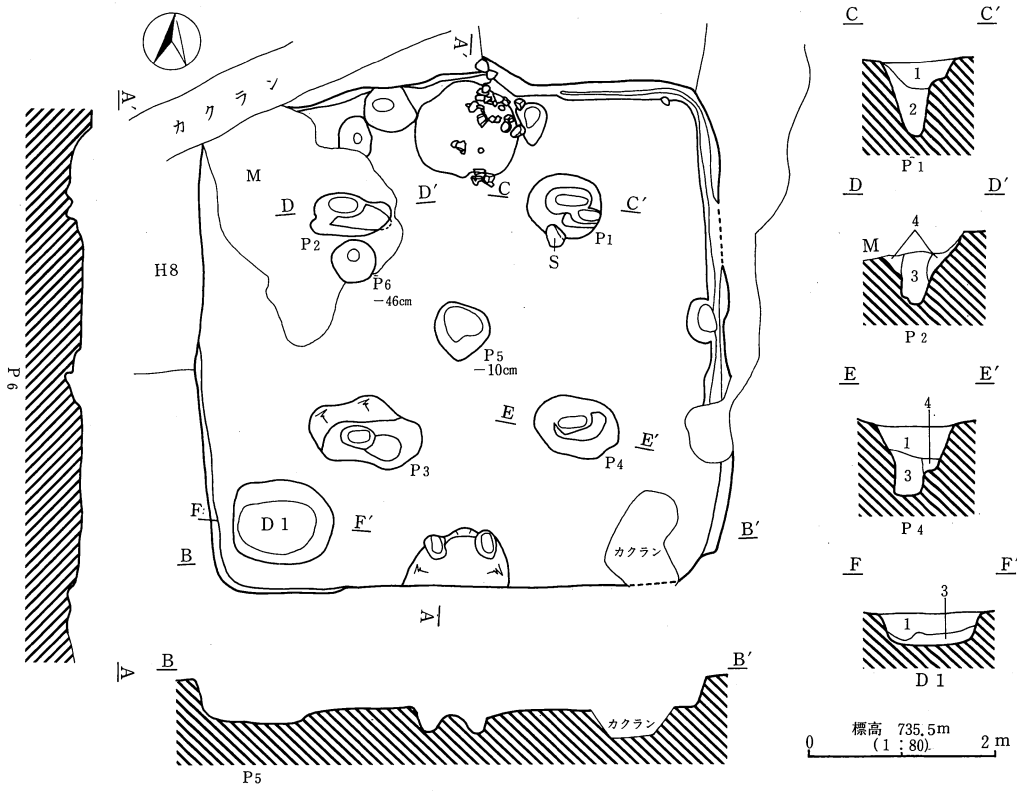
土師器杯は内面ミガキ黒色処理され、底部回転糸切りのままのものや底部周辺と口縁下部のみへラケズリするものがある。高台の付く皿は内湾気味の口縁である。甕は武蔵甕で口縁部形「コ」字を呈す。

須恵器杯はロクロ調整のままである。須恵器で器高が深く、底径の小さい椀形器形がある。

時期は9世紀後半に位置付けられよう。



写真230 H9号住居址（南より）



H9 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム・バミス粒含む。
2. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム主体。
3. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム多く含む。
4. 黄褐色土層 (10YR 5/6) ローム主体に黒色土ブロック含む。

H9 カマド土層説明

1. 黒色層 (5YR 7/1) 炭化物層。
2. 褐灰色層 (5YR 4/1) 灰層
3. 暗赤褐色土層 (5YR 3/3) 焼土粒子を含む粘性のつよい土。
4. 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層。
5. 褐色土層 (7.5YR 3/4) ローム粒子に黒色土含む。

第100図 H9号住居址実測図



写真231 H9号住居址カマド（西より）



写真232 H9号住居址カマド掘り方（南より）



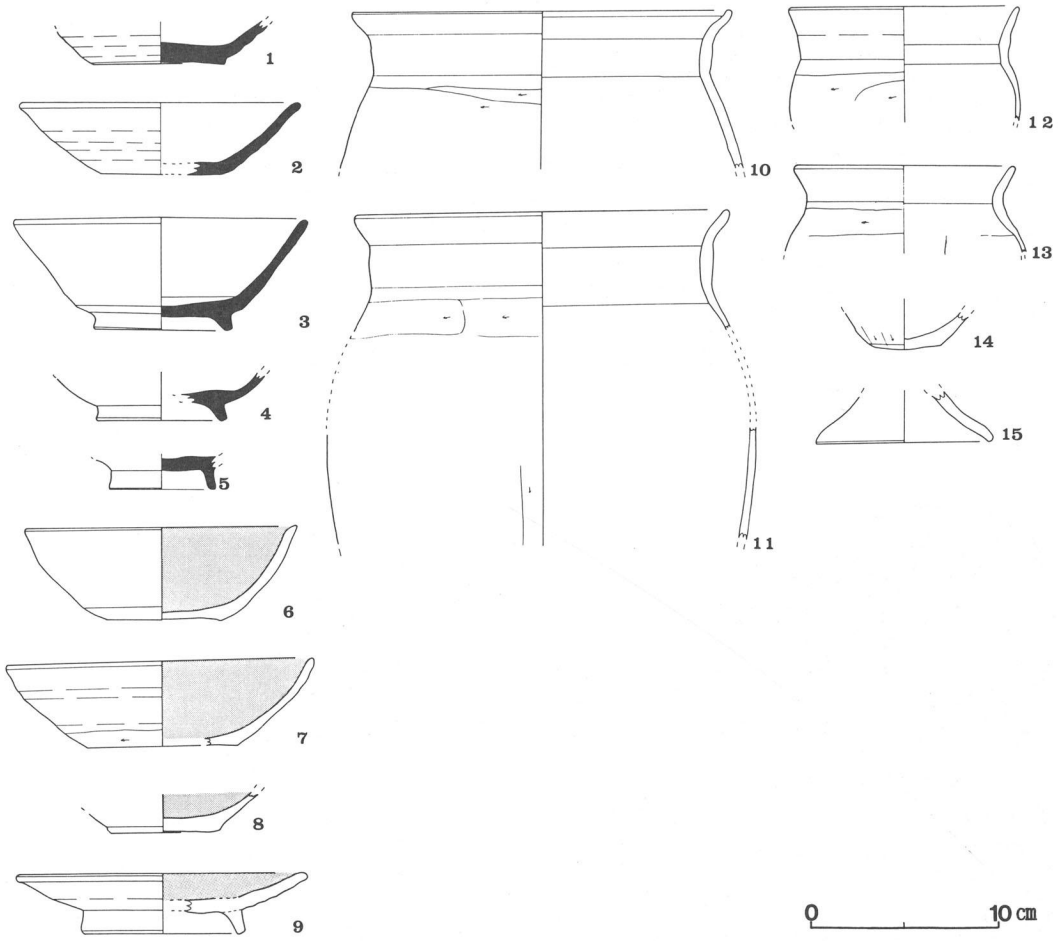
写真233 H9号住居址P1（南より）



写真234 H9号住居址P2（南より）



写真235 H8号住居址（右下）・H9号住居址（左上）（北より）



第101図 H9号住居址出土遺物実測図



写真236 H9号住居址掘り方(南より)

10) H10号住居址

遺構

I区3次調査地点で検出された住居址でHあー9グリットにある。西壁中頃から南壁西側にかけて暗渠により壊される。規模は長軸を東西に持ち、3.0×2.88mを測り、方形を呈す。カマドは西壁にある。

床面は締まっていた。床下に掘り方はなくタタキの床である。床下からも南北に柱穴が検出された。

生活面では柱穴が南北壁に接して1個ずつある。

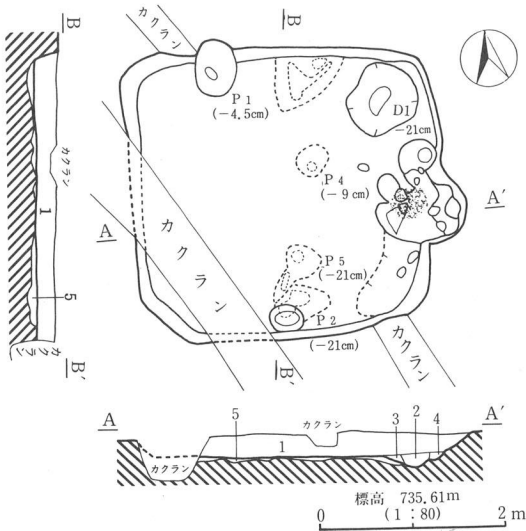
土坑は北東隅にあり、不整形形を呈し径80cm深さ21cmを測る。



写真237 H10号住居址（南より）



写真238 H10号住居址掘り方（南より）



第102図 H10号住居址実測図

H10土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2) 1cm大のパミスを含む。ローム粒子を少量含む。
2. 黒褐色土層 (5YR 3/3) 焼土粒子含む。焼け込んでいる。
3. 黒褐色土層 (10YR 3/1) 焼土・炭化物粒子を少量含む。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR 4/3) ローム主体。焼土粒子含む。
5. 黒褐色土層 (10YR 3/2) パミスを少量含む。

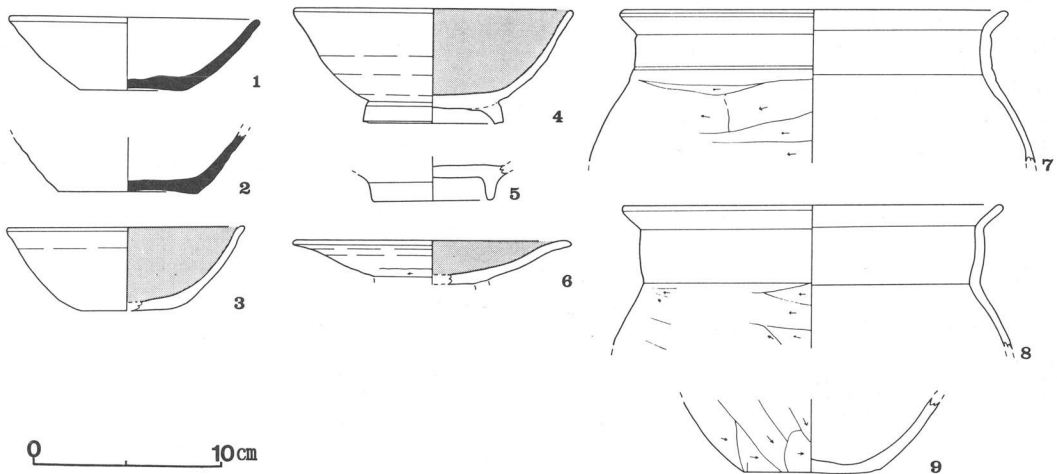
遺物

土器1.5Kgが出土している。土師器は杯・碗・高台の付く皿・甕・小型甕・台付き甕がある。

須恵器は杯がある。

土師器杯・碗・皿は内面ミガキ黒色処理され、底部回転糸切りである。甕は武蔵甕で口縁部形態「コ」字形である。須恵器杯は小さい底部から口縁部が外側に開く。

これらより10世紀前半に位置づけられよう。

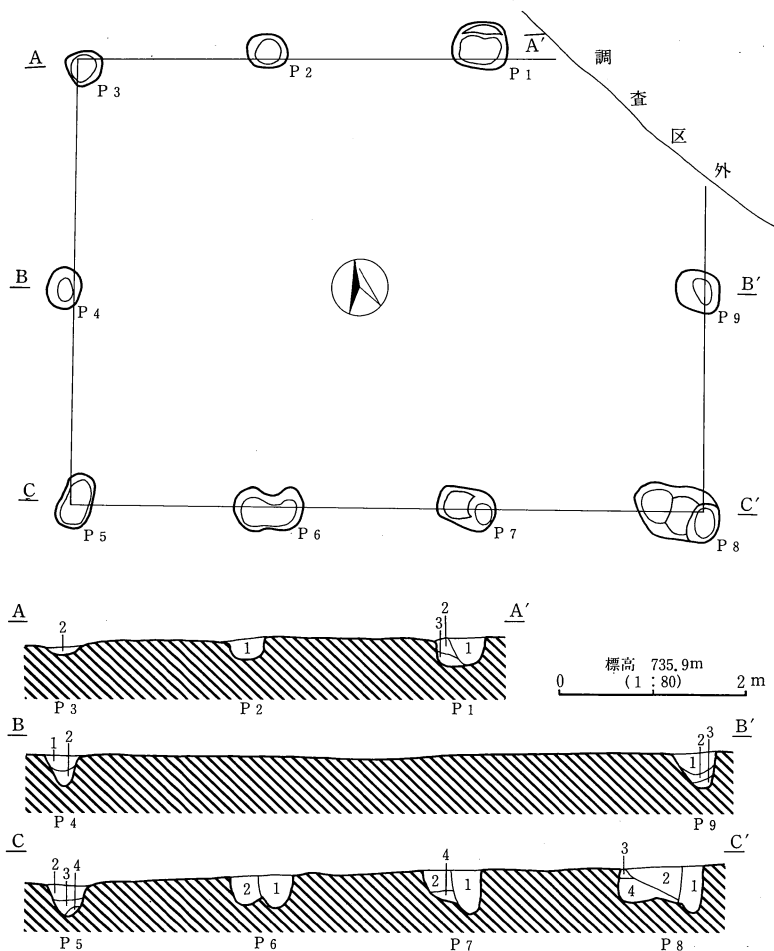


第103図 H10号住居址出土遺物実測図

2、掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址

I地区北端Dけー2グリットにある。桁行き600cm梁行き440cmを測り、3間×2間の東西棟である。北東のピットが区域外で検出できないが10本柱の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wである。柱穴は径36~44cm、深さ12~48cmを測る。



第104図 F1号掘立柱建物址実測図

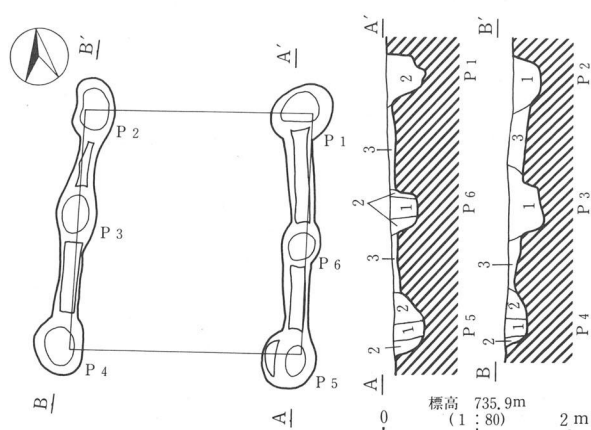


写真239 掘立柱建物址群（北より）



写真240 F1号掘立柱建物址（東より）

2) F2 掘立柱建物址



I地区北側Dく-4グリットにある。溝持ちの掘立柱建物址である。桁行き260cm、梁行き240cm、2間×1間の南北棟である。主軸方位はN-9°-Wである。6本柱で、柱穴は径52~80cm深さ24~40cmを測る。側柱式である。

第105図 F2号掘立柱建物址実測図

F2土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2)
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒・ロームブロック多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒子多く含む。

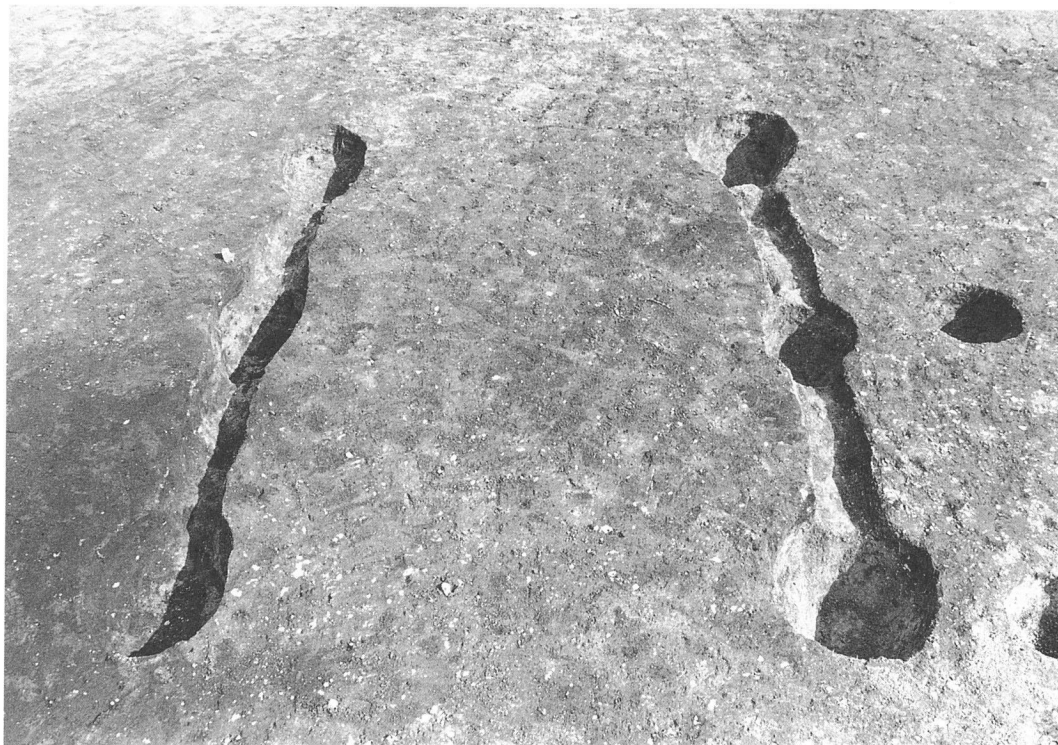
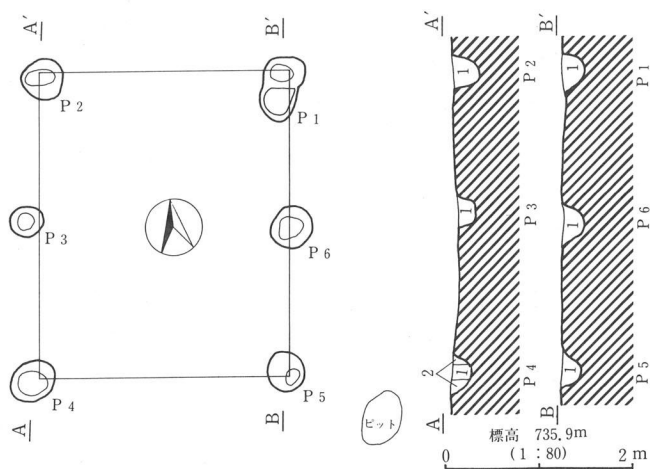


写真241 F2号掘立柱建物址 (南より)

3) F3号掘立柱建物址

I地区北側、Dき-5グリットにある。桁行き320cm梁行き260cmの2間×1間の南北棟である。



主軸方位はN-5°-Wを指す。6本柱で柱穴は径30~40cm深さ18~28cmを測る。側柱式である。

第106図 F3号掘立柱建物址実測図

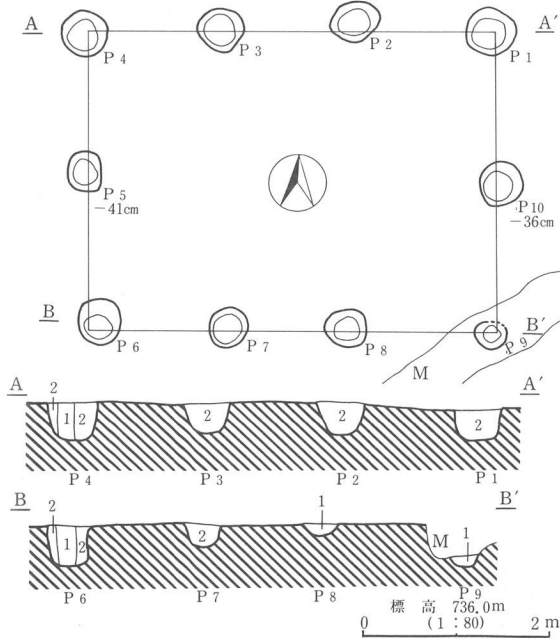
F3土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム・パミスを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒・ロームブロックを多量に含む。



写真242 F3号掘立柱建物址 (南より)

4) F4号掘立柱建物址



第107図 F4号掘立柱建物址実測図

I地区北側南Dかー6グリットにある。桁行き420cm、梁行き320cmの3間×2間の掘立柱建物址である。東西棟で側柱式である。主軸はN-2°-Wである。10本柱で柱穴は径36~52cm、深さはP7の24cmとはP8の12cmを除いて、32~44cmを測る。

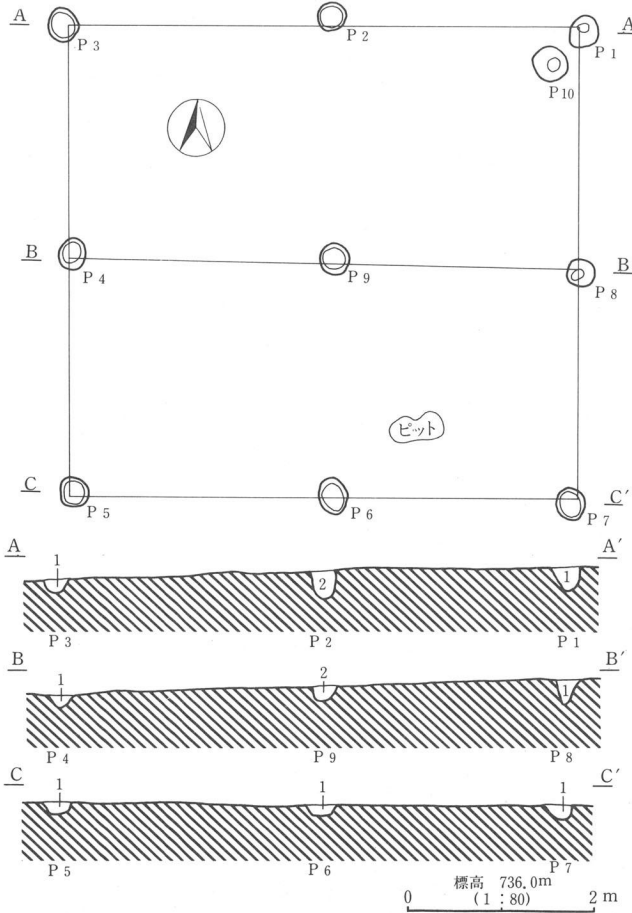
F4土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒・ロームブロック含む。



写真243 F4号掘立柱建物址 (東より)

5) F5 掘立柱建物址



I地区北側Dく-7グリットにある。桁行き540cm梁行き492cmの2間×2間の東西棟で、総柱の掘立柱建物址である。主軸方位はN-3°-Wである。柱は9本で柱穴は径28~32cm、深さ12~28cmを測る。

F5土層説明

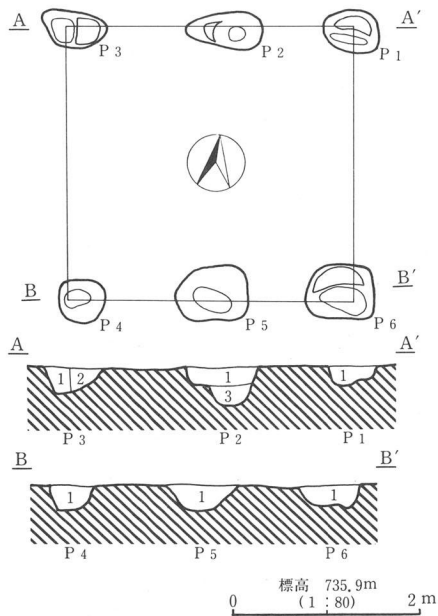
1. 黒褐色土 (10YR 2/2) ローム粒を含む。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2) バミス・ロームを多量に含む。

第108図 F5号掘立柱建物址実測図



写真244 F5号掘立柱建物址 (東より)

6) F 6 掘立柱建物址



第109図 F 6号掘立柱建物址実測図

I地区中央のGこー4グリットにある。桁行き280cm
梁行き280cm 2間×1間の東西棟である。主軸方位は
N-8° -Wである。6本柱の側柱式で、柱穴径56
~80cm、深さ20~40cmを測る。

F 6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2) バミス・ローム含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) バミス・ローム粒・ロームブロック
多く含む。
3. 褐色土層 (10YR 4/4) ロームブロックを多量に含む。

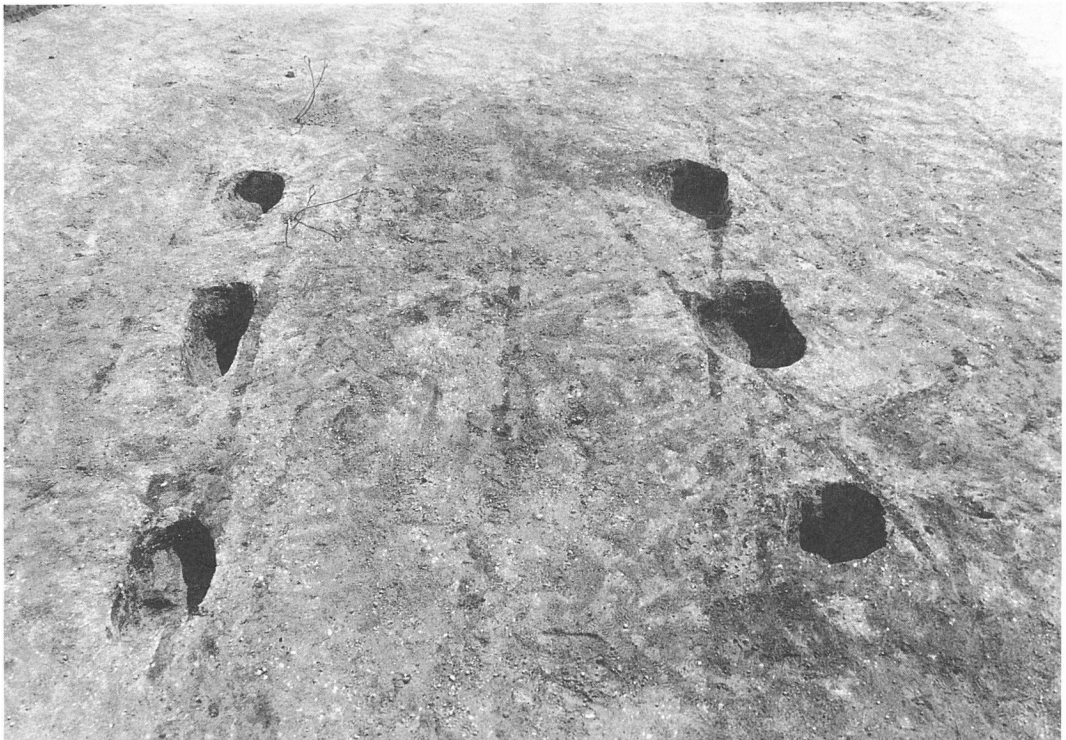
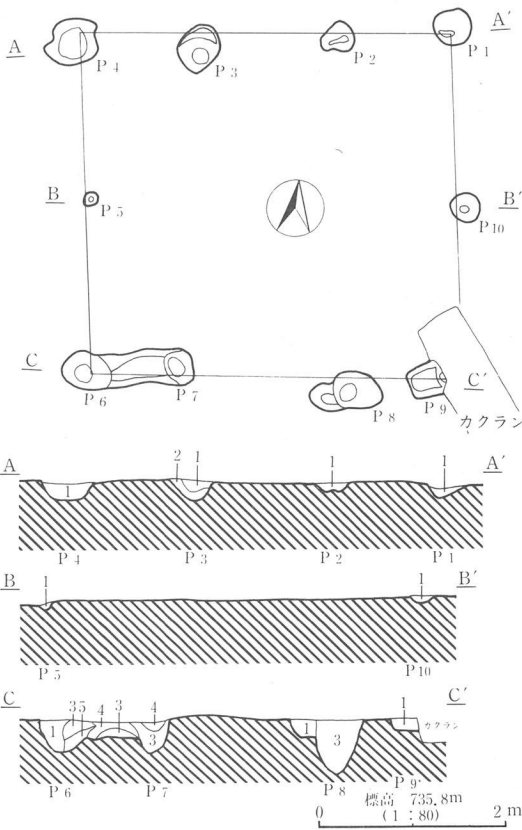


写真245 F 6号掘立柱建物址 (東より)

7) F7 掘立柱建物址



第110図 F7号掘立柱建物址実測図

I地区中央Gこー4グリットにある。主軸方位 $N-5^{\circ}-W$ を指す、東西棟である。桁行き400cm梁行き360cmの3間×2間の掘立柱建物址である。P6とP7は溝でつながる溝持ちである。10本柱の側柱式である。ピットはP5とP10が径16cm深さ8cmと径28cm深さ8cmと径が小さく、他は径36~52cm、深さ8~56cmである。

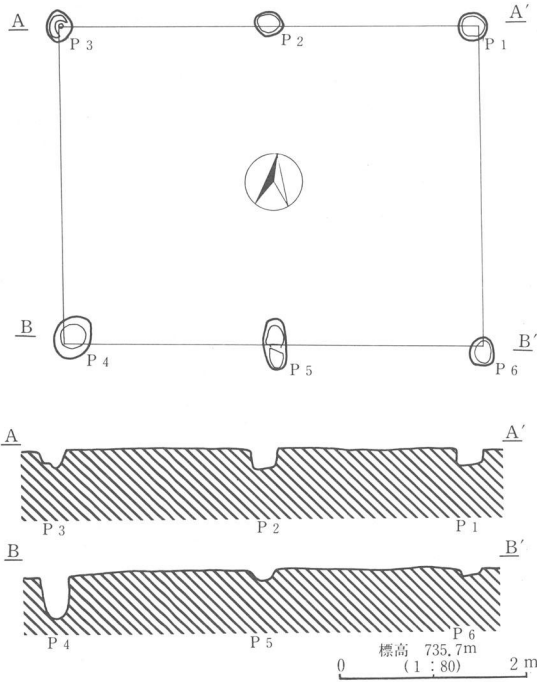
F7土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒を多く含む。
2. 褐色土層 (10YR 4/6) ローム粒を極めて多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 2/3) バミス・ローム多く含む。
4. 黄褐色土層 (10YR 5/8) ローム。
5. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ロームを多量に含む。



写真246 F7号掘立柱建物址 (南より)

8) F8号掘立柱建物址



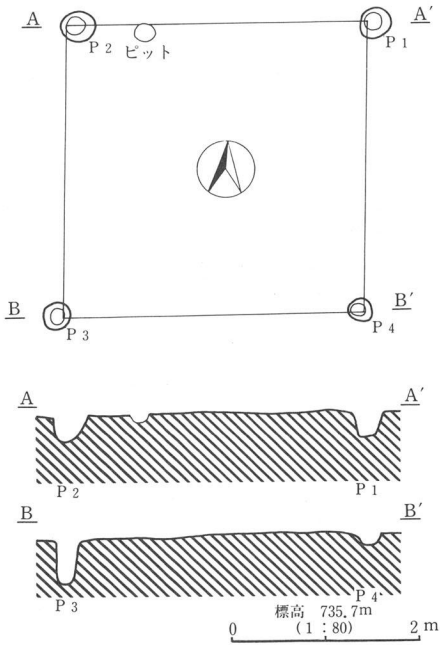
I地区南側中央Gコー7グリットにある。桁行き440cm梁行き336cm、2間×1間の東西棟である。主軸方位はN-5°-Wである。6本柱で側柱式である。ピットは径28~36cm深さ12~40cmを測る。

第111図 F8号掘立柱建物址実測図



写真247 F8号掘立柱建物址(西より)

9) F 9号掘立柱建物址



I地区南側中央Gこー8グリットにある。南北320cm
東西300cmの1間×1間の掘立柱建物址である。主軸
方位はN-3°-Wである。4本の柱の径は24~36
cm、深さ12~44cmを測る。

第112図 F 9号掘立柱建物址実測図

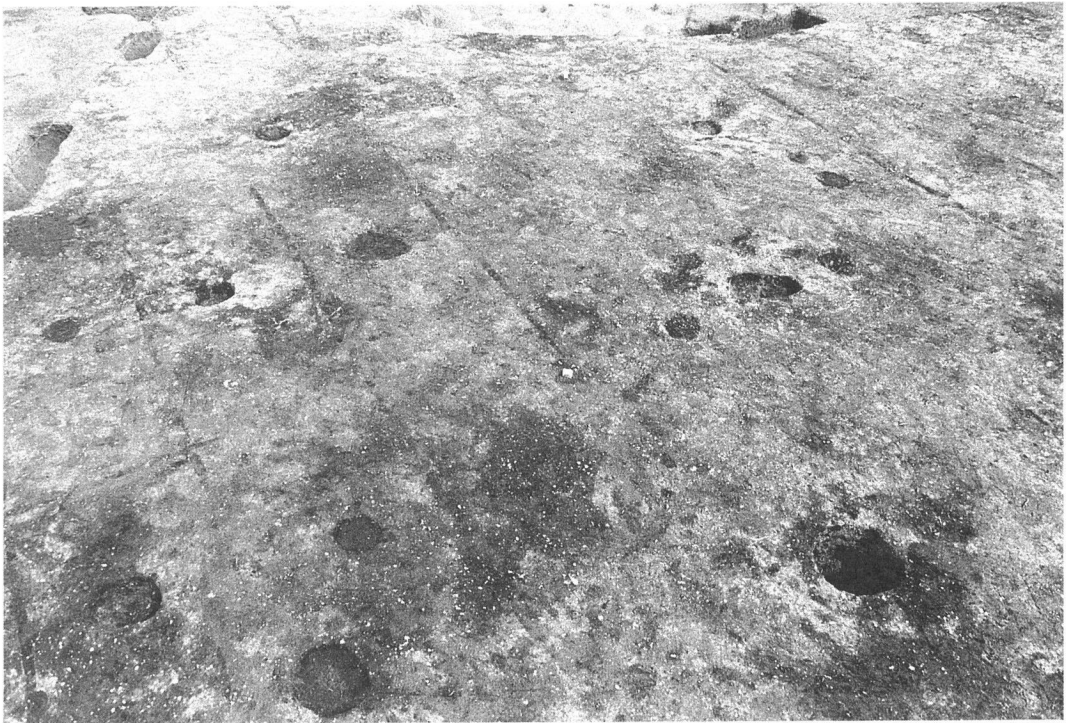
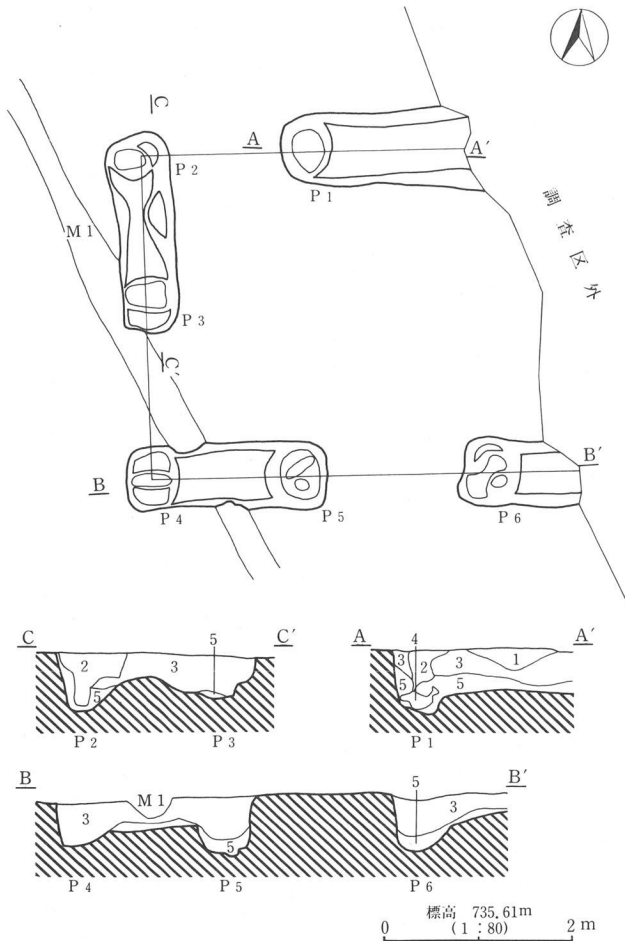


写真248 F 9号掘立柱建物址 (西より)

10) F10掘立柱建物址



I地区3次調査で検出された。I地区中央のHいー8グリットにある。東側は調査次が異なったため、工事に壊されてない。推定で桁行き東西520cm梁行き340cmを測る。3間×2間の溝持ちの掘立柱建物址である。溝幅は60~68cm長さ208cm、柱穴は40~64cm深さ44~64cmを測る。

F10土層説明

- 1層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 自然堆積。パミスを多量に含む。
- 2層 褐色土 (7.5YR4/3) 柱痕抜き取り時の堆積。パミスを多量に含む。
- 3層 黒褐色土・明黄褐色土 (7.5YR2/2・10YR6/8) 人為的埋土。黒褐色土と明黄褐色土を主とする埋土。
- 4層 黒褐色土 (7.5YR3/2)
- 5層 橙色 (7.5YR6/6) 人為的埋土。黒褐色土 (7.5YR3/2) を小ブロック状に含む。

第113図 F10号掘立柱建物址実測図

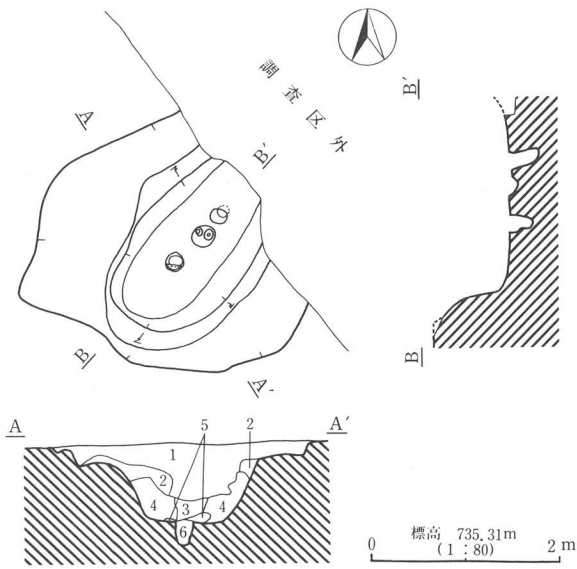


写真249 F10号掘立柱建物址 (西より)



写真250 F10号掘立柱址 P4・P5 (西より)

3、土坑



第114図 D1号陥し穴実測図

D1号陥し穴

3次調査区Hう-7グリットにある。
東側は調査時が異なったため、工事で壊されてない。検出面で幅300cm中段で152cmを測る。深さは80cmあり、底面に3個の杭痕があった。径は14~24cmを測る。

D1土層説明

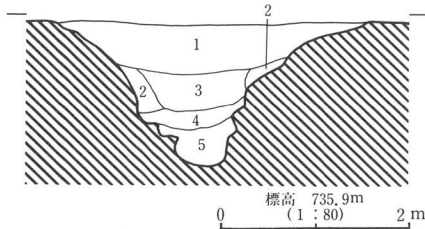
- 1層 黒色土 (7.5YR 3/2) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~1cm大のパミスを多量含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR 3/2) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~2cm大のパミスを多量含む。
- 3層 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~2cm大のパミスを多量含む。
- 4層 黄褐色土 (10YR 5/6) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm~1cm大のパミスを少量含む。
- 5層 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒子細かく粘性弱。直径0.5cm大のパミスを微量含む。
- 6層 黒褐色土 (10YR 2/2) 粒子細かく粘性弱。



写真251 D1号陥し穴 (北東より)

4、溝状遺構

M1号溝状遺構 I地区北側の南、Hこー1からDえー7にかけてあり、西に低くなっている。幅320cm深さ145cmを測る。H3号住居址を壊している。



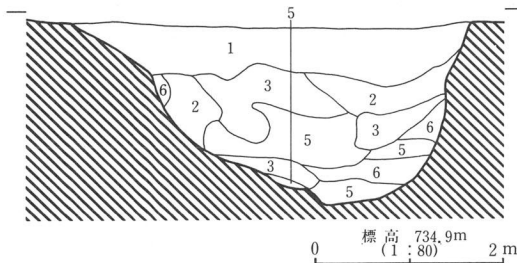
第115図 M1号溝状遺構実測図



写真252 M1号溝状遺構土層断面（北より）

M1土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) バミスを多く含む。ローム粒含む。
2. 褐色土層 (10YR 4/4) ローム粒子・ロームブロック多量含む。
3. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒・砂を多量に含む。
4. 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂・ロームブロックを含む。
5. 灰白色土層 (10YR 7/1) 砂層。



第116図 M2号溝状遺構土層断面図



写真253 M2号溝状遺構土層断面（西より）

M2土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/2) バミスを多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂を多く含む。バミス・ローム粒含む。
3. にぶい黄橙色 (10YR 6/4) シルト層。
4. 明黄褐色土層 (10YR 6/8) ローム層。
5. 褐灰色土層 (10YR 6/1) 砂礫層。
6. 灰白色土層 (10YR 7/1) 砂層。

M2号溝状遺構 I地区北西Eうー4グリット～Eうー4グリットに南流する。VI地区の河川へ続くものと思う。幅400cm深さ184cmを測る。

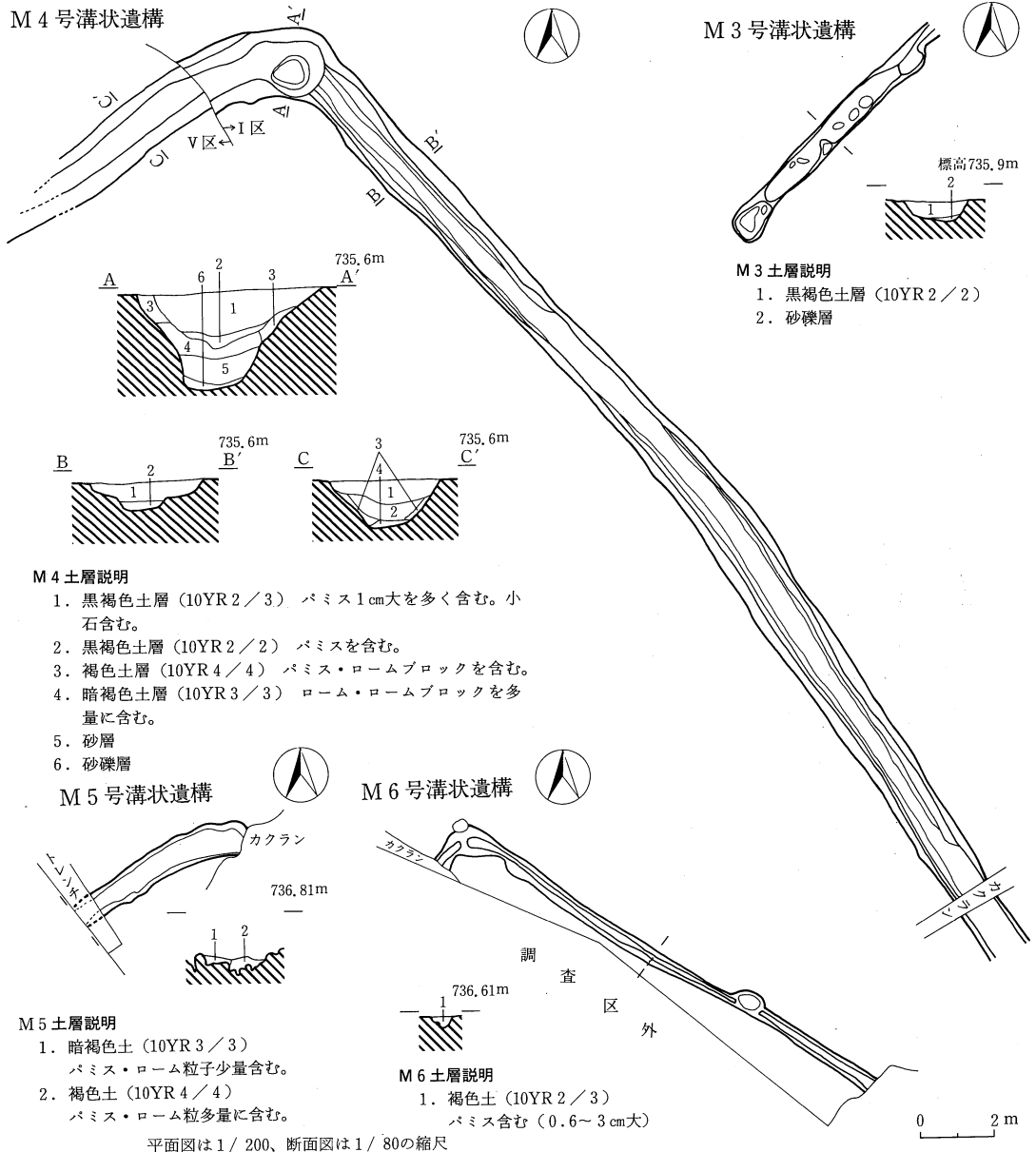
M3号溝状遺構 I地区北側南Dくー9～Dえー6グリットあり、西に低くなっている。流れ

はじめは上久保田向遺跡Ⅳ地区の南西の端からである。幅70cm深さ20cmを測る。

M 4号溝状遺構 I地区南西のK えー7~K けー1グリットが南東から南西にかけて流れ、直角に曲がって南西に行く溝である。幅120cm前後、深さは28~52cmを測る。

M 5号溝状遺構 I地区三次調査区の北端H きー4グリットにある。幅100cm深さ40cmを測る。

M 6号溝状遺構 I地区三次調査区の北端H うー8グリットにある。幅50cm深さ12cmを測る。



第117図 M 3号~M 6号溝状遺構実測図



写真254 M3号溝状遺構（北西より）



写真255 M4号溝状遺構（北より）



写真256 M5号溝状遺構（東より）

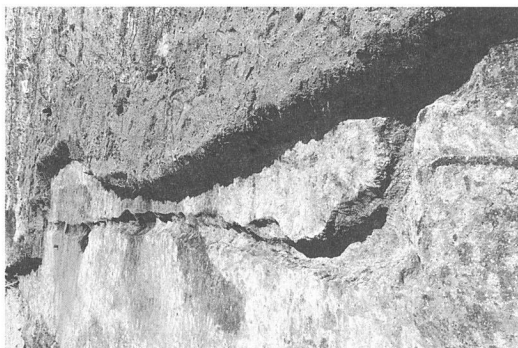
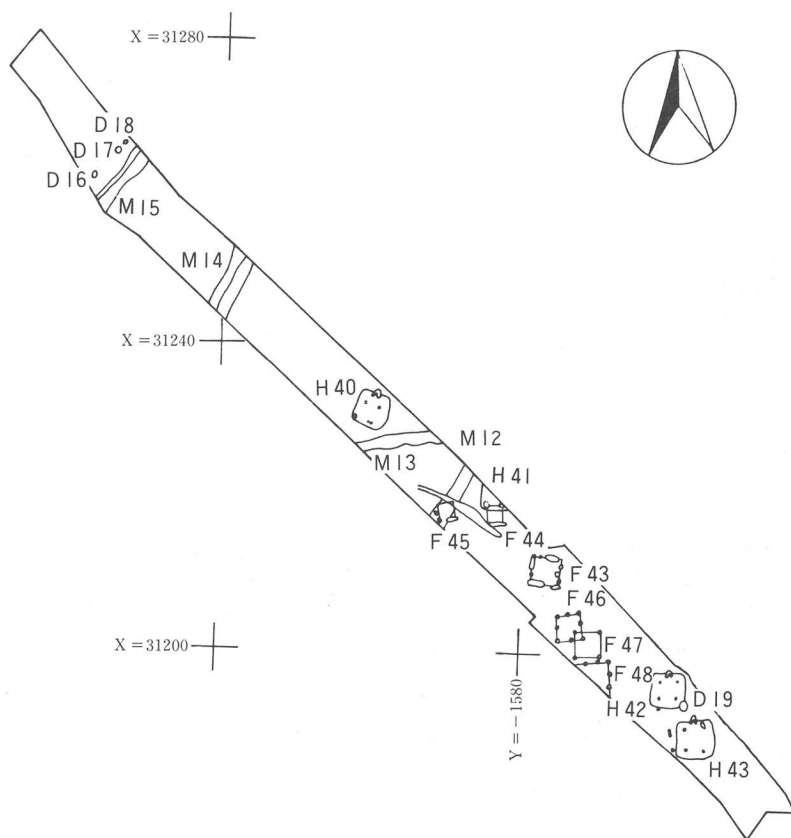


写真257 M6号溝状遺構（東より）



写真258 上久保田向遺跡I区3次調査（北西より）

上久保田向遺跡II地区



第118図 上久保田向遺跡II地区

第1節 上久保田向遺跡Ⅱ地区

1、竪穴住居址

1) H40号住居址

遺構

Ⅱ地区2次調査。Ⅱ地区中央にあたるTあ-3グリットにある。カマドの北側を浅い溝が上面を壊している。残存状態が良く、カマドの煙道部がそのまま残っていた。

規模は420cm(南北)×412cmの方形を呈する住居址である。主軸方位はN-20°-Eを指す。

床面は2面の締まった床が確認できた。床は全体に良く締まり、生活面の検出は容易であった。

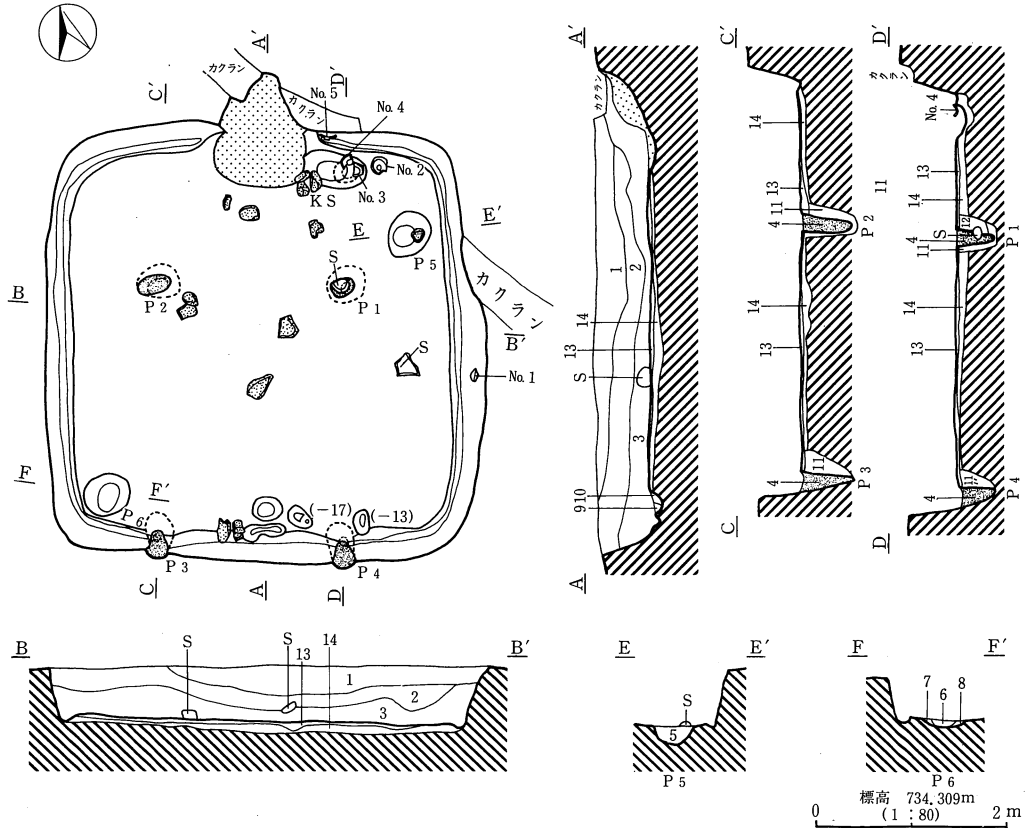
生活面で支柱穴の長径28cm深さ60~40cmを測る柱痕と南壁下の出入口施設のピット、北東の長径53cm深さ20cmの灰落としピット(P5)、南西にピットを検出した。南西の径48cm深さ8cmの浅いピットには焼土があった。周溝が壁下を全周している。

覆土は黒褐色土で砂礫質である。壁残高30cm、掘り方は床下へ10cm下がる。

カマドは北壁中央にあり、長さ118cm幅98cmを測る。煙道が残り武蔵甕を逆位に重ねて煙道として利用し、黒褐色粘土で構築している。多くの軽石を芯材として組み粘土を充填する構造である。カマドの東隣には長径70cm深さ12cmピットがある。



写真259 H40号住居址(北より)



第119図 H40号住居址実測図

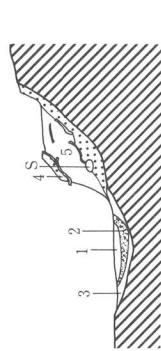
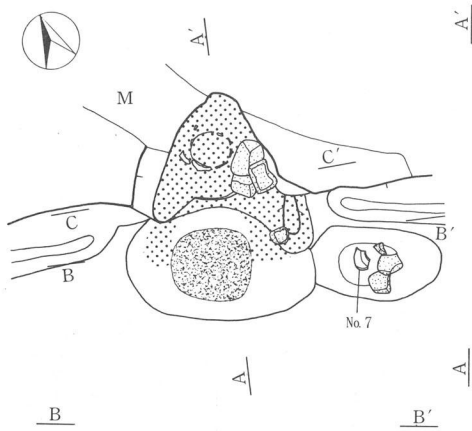
H40土層説明

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 砂利層。3cm大礫をも含む。 2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 1層に黒色土ブロック多く含み黒味あり。 3. 黒褐色土 (10YR 2/3) 1層より礫が少ない。やや明るい。 4. 黒褐色土 (10YR 2/3) 柱痕。僅かにバミス含む。しまりなし。 5. 黒褐色土 (10YR 3/2) フカフカ。灰・炭化物含む。 6. 暗褐色土 (7.5 YR 3/3) 焼土・粒子多く含む。 7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 焼土・バミス粒含む。 8. 黒褐色土 (10YR 2/2) バミス含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 黒褐色土 (10YR 2/2) 10. 褐色土 (10YR 4/4) バミス粒含む。 11. 暗褐色土 (10YR 3/3) ロームと黒色土混合層 12. 黒褐色土 (10YR 2/3) フカフカ・ローム粒子混じる。 13. 黒褐色土 (10YR 2/2) 貼り床。二面の床面あり。暗褐色の砂礫と黄褐色ローム混合層 14. 黒褐色土 (10YR 3/2) 黒色土にローム粒子含む。 |
|--|--|

遺物

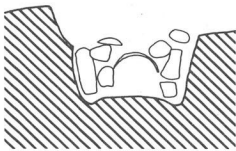
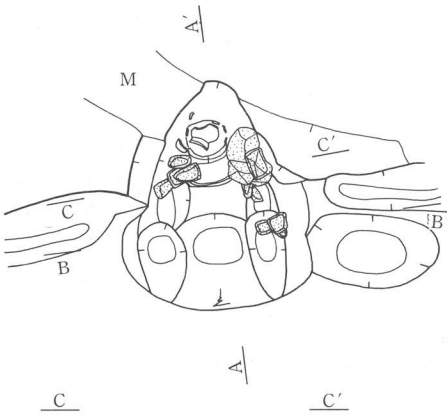
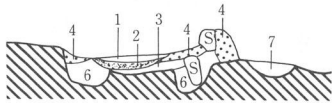
土器が出土する。土師器は杯・椀・甕がある。須恵器は杯・四耳壺の口縁がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理され、10は外面にもミガキを施し、11・12は外面口縁下部と底部を回転ヘラケズリしている。椀も内面黒色処理される。墨書「米」が書かれている。この土師器の杯・椀は調整が丁寧で器形も整い焼成も良い。土師器甕はいずれも武蔵甕である。口縁部形



カマド H40土層説明

1. にぶい赤褐色 (5YR5/4) 灰含む。
2. 明赤褐色 (5YR5/8) 焼けた土。
3. 黒褐色土 (5YR2/2) 焼土含む。黒味あり。
4. 黒褐色土 (7. 5YR3/2) 粘土主体。
5. 暗褐色土 (7. 5YR3/4) 焼土を多く含む。
6. 暗褐色土 (7. 5YR3/3) 焼土粒子含む。
7. 黒褐色土 (7. 5YR2/2) 炭化物・焼土をいくらか含む。小石含む。



標高 734.309m
(1:40) 1m

第120図 H40号住居址カマド実測図



写真260 H40号住居址カマド (南より)



写真261 H40号住居址カマド掘り方



写真262 H40号住居址カマド煙道（南より）

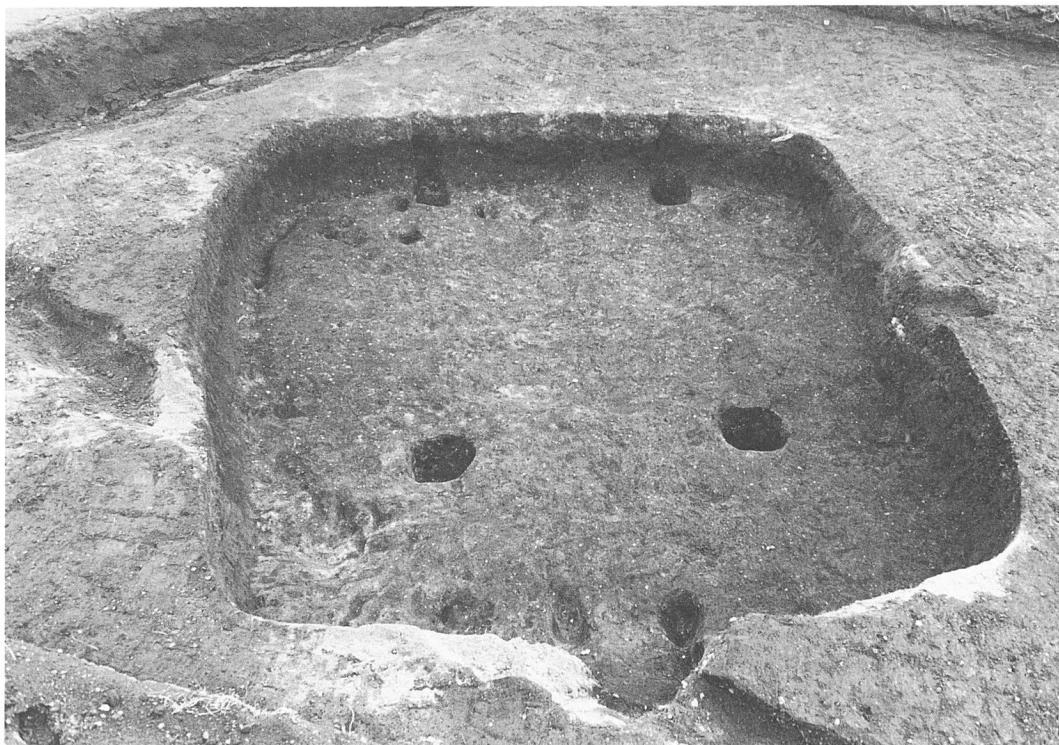
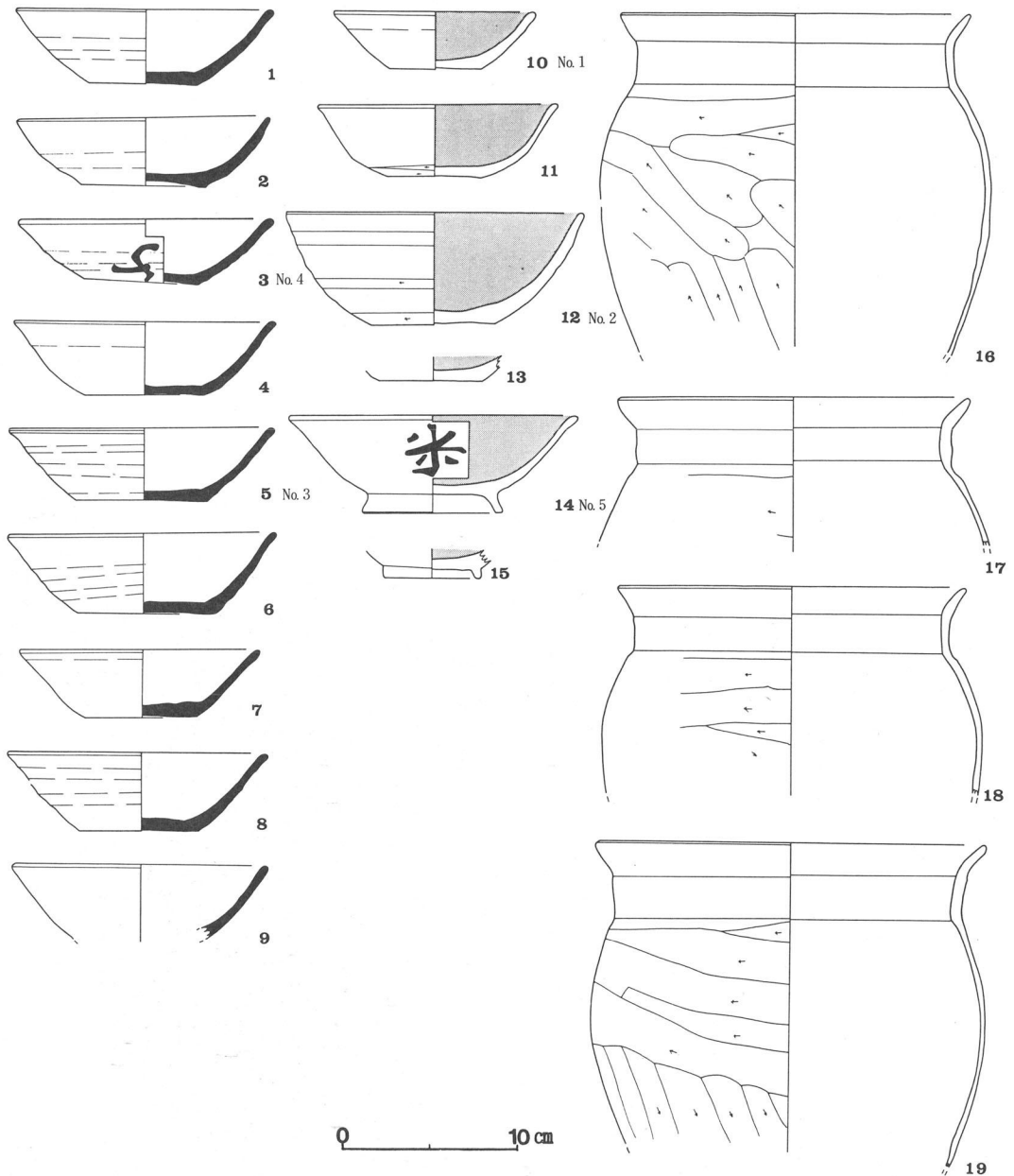


写真263 H40号住居址掘り方（北より）

態は「コ」字形である。16・18・19が煙道に使用されたものである。

須恵器は杯形土器が9点実測できた。ロクロ調整で底部回転糸切りされる。器形は小さい底部から内湾して開くものと、広めの底部から直線的に開くものがある。墨書がなされ判読不明である。1の外面にも墨書の痕跡があるが、実測できなかった。いずれも軟質である。

時期は9世紀後半の位置づけができよう。



第121図 H40号住居址出土遺物実測図

2) H41号住居址

遺構

II地区中央 H40の南東、Sき-5グリットにある。北東の約半域が調査区域外であるため全容はつかめなかった。南壁でF44号掘立柱建物址を切っている。

規模は東西300cm南北280cmで東西に長軸をもつ。主軸方位はN-0°である。

床面は黒色土とロームブロックの貼り床で良く締まっていた。床下は4cmほど下がるが周辺部は10cmほど掘り込まれている。

柱穴は支柱穴が検出されず、出入口施設のピットがある。

土坑は北西にあり、長径60cmの楕円形を呈し、深さ12cmである。

覆土は2層堆積し、黒褐色土である。

カマドは検出されていない。

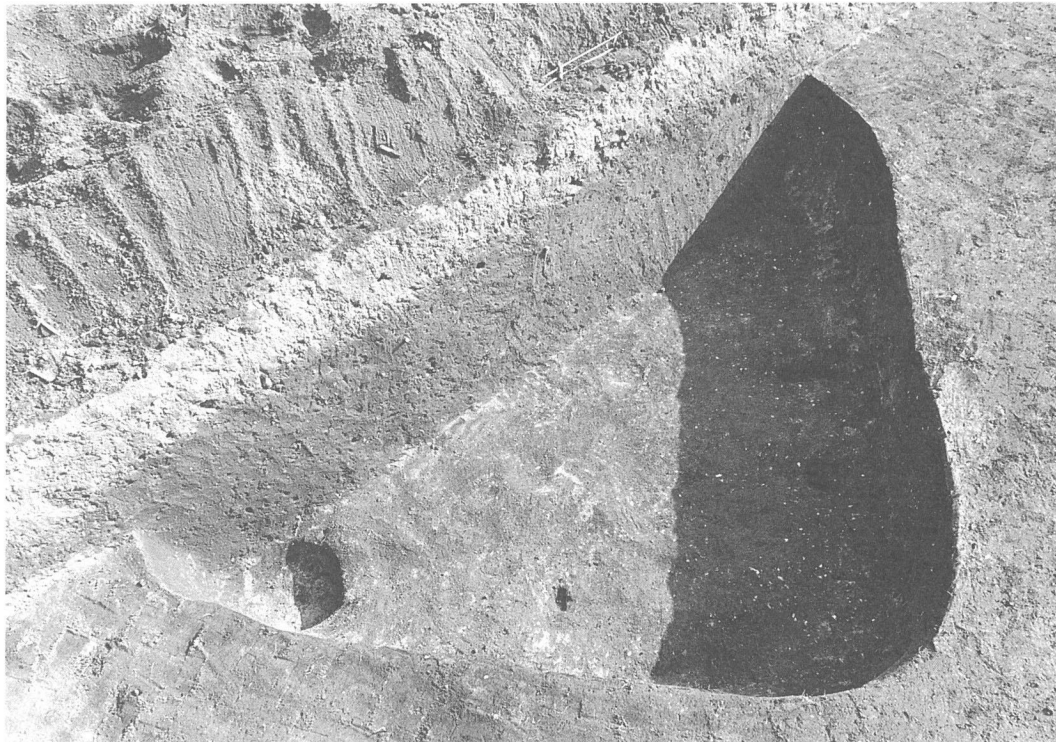
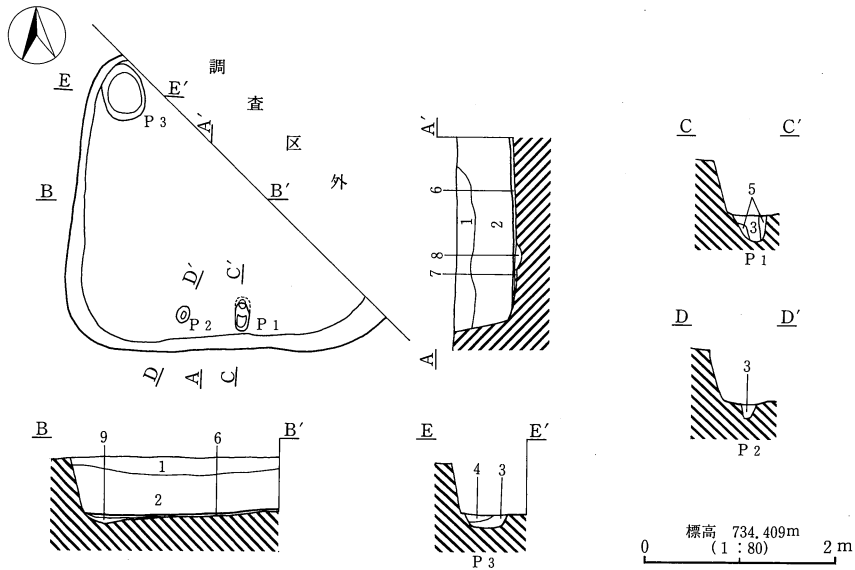


写真264 H41号住居址 (西より)



第122図 H41号住居址実測図

H41土層説明

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 5mm大のバミスを含み細かいロームブロック少々含む。 2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 1層より多くのロームブロック1cm大を多く含む。ときどき黒色土ブロックを含む。 3. 黒褐色土 (10YR 2/3) しまりなし。細かいローム。 4. 黒褐色土 (10YR 2/3) ロームブロック層。 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 褐色土 (10YR 4/6) 6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 黒色津日とロームブロック貼り床。堅緻。 7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 黒色津日とロームブロック貼り床。堅緻。 8. 黄褐色土 (10YR 5/8) ローム。 9. 暗褐色土 (10YR 3/4) 黄褐色ロームブロック多量に含む。 |
|---|---|

遺物

土器がわずかに100g 出土し、実測個体はない。

土師器は武蔵甕の破片、須恵器は杯の破片がある。杯はロクロ調整、底部回転糸切りされるものである。

時期は9世紀代と見て良いと思われる。

3) H42号住居址

遺構

II地区南端にあり、II地区一次調査区である。暗渠により一部壊される。

規模は東西460cm南北392cmを測り、東西に長軸を持ち長方形を呈す。主軸方位は $N-0^{\circ}$ で北を指す。壁残高は20cmを測る。

周溝が北壁～南壁中央まであった。床面は締まっていた。掘り方は周辺部を掘り下げ、中央部を残すものである。

柱穴は4本の支柱穴が検出され、260cm(東西)×240cmに配される。長径28~60cm深さ56~64



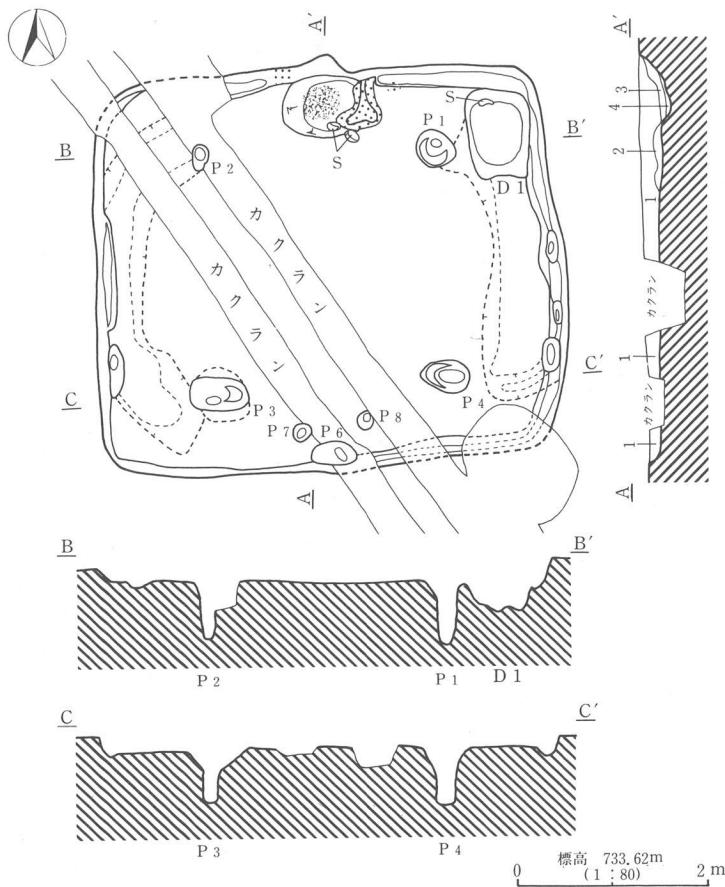
写真265 H42号住居址 P1 (南より)



写真266 H42号住居址 P6・P7 (南より)



写真267 H42号住居址 (南より)



H42土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2)
パミス (2cm大) ローム粒多量に含む。
2. 橙色土層 (7.5YR 6/8)
粘土。
3. 黒褐色土層 (10YR 2/3)
橙色粘土・炭化物粒子・焼土粒子含む。
4. 暗褐色土層 (7.5YR 3/3)
灰・焼土多量に含む。

cmを測る。

P6～P8は出入口施設のピットである。

土坑は北東隅にあり、長辺92cm短辺8cmの隅丸長方形を呈し、深さ24cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、長さ64cm幅100cmを測る。火床部と袖の一部が残っていた。



写真268 H42号住居址カマド (南より)



写真269 H42号住居址カマド掘り方 (南)

遺物

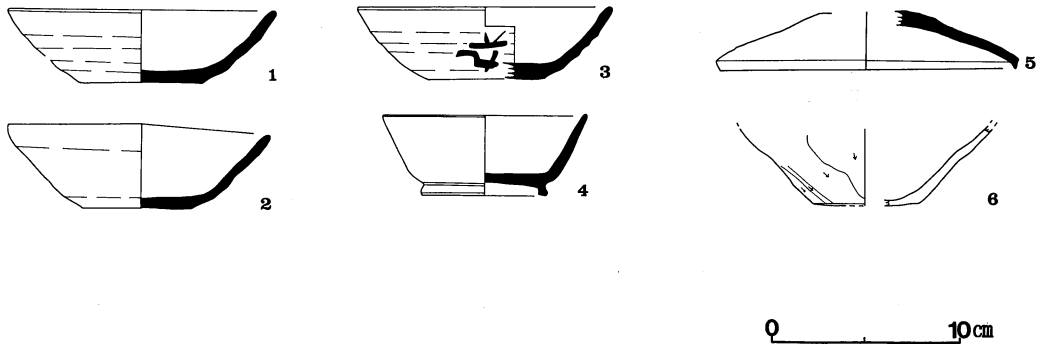
土器950g と鉄製の刀子が出土している。

土器は土師器杯・甕、須恵器杯・高台付き杯・杯蓋・甕がある。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される破片が5個あるだけである。甕は武蔵甕である。

須恵器杯は底部回転糸切りのもので、3は判読不明だが、墨書がなされている。杯蓋は扁平で短く口縁が折れる。

時期は9世紀代が相当するものと思う。



第124図 H42号住居址出土遺物実測図

4) H43号住居址

遺構

II地区1次調査地点である。II地区南端にある。暗渠により、一部壊される。

規模は南北500cm東西492cmの南北に長軸をもつ方形の住居址である。主軸方位は北を指す。

床面は締まっていた。床下は西壁下が掘り込まれ貼り床されている。

周溝が壁下を全周している。

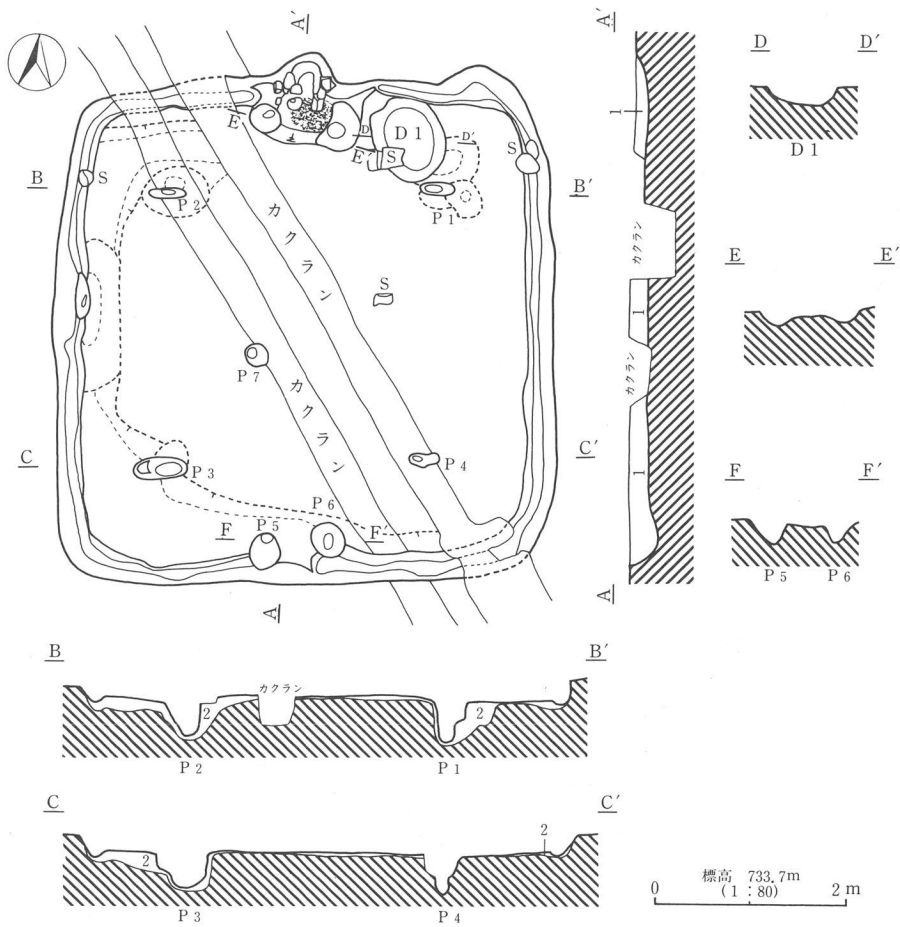
柱穴は、支柱穴4本と南壁下の出入り口施設のピットと、中央の床面にもある。P1～P4は長径36～52cmの長楕円の柱痕をもち、深さ40～48cmを測る。ピットの径は40～70cmを測る。

土坑はカマドの東にあり、長径92cm深さ20cmを測る。

カマドは北壁中央にあり、長さ92cm、幅112cmを測る。火床部とカマドに使用した石が残っていた。



写真270 H43号住居址（南より）



H43土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 3/2) パミス・ローム粒多量に含む。
2. 掘り方



写真271 H43号住居址カマド (南より)



写真272 H43号住居址カマド掘り方 (南)

遺物

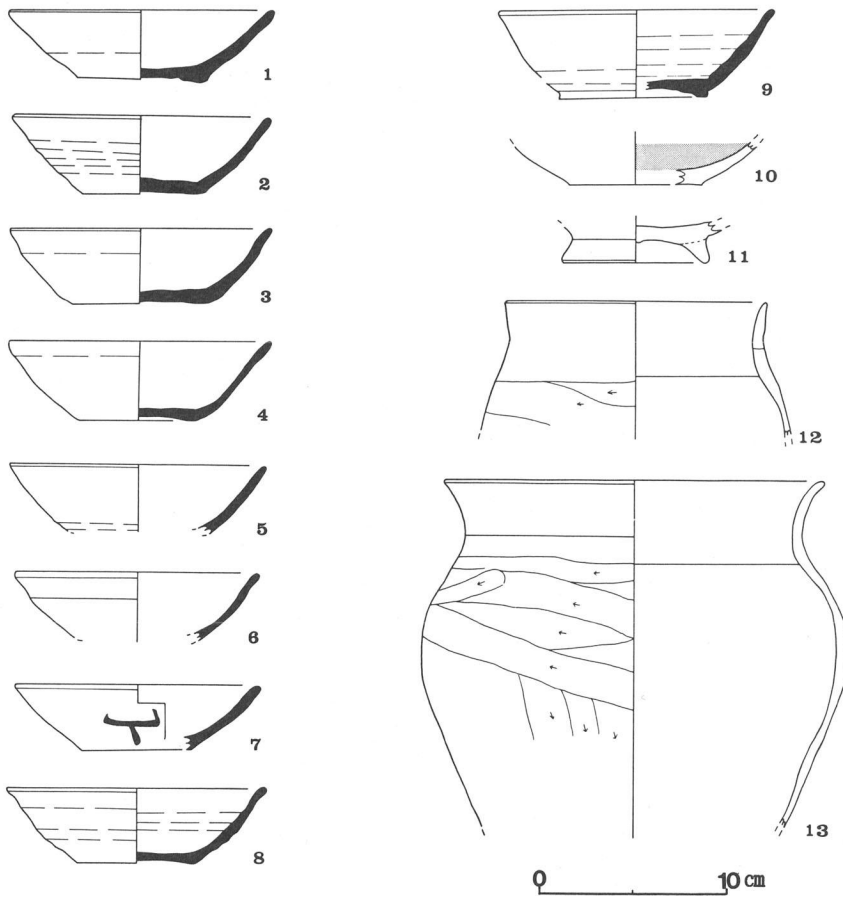
土器と刀子2本が出土している。

土器は土師器杯・碗・甕・小型甕がある。須恵器は杯・高台付き杯がある。

土師器杯はミガキ内面黒色処理され、底部は回転糸切り後へラケズリされるものである。土師器甕は武蔵甕で口縁部形態が「く」の字形である。

須恵器杯はロクロ調整のままで底部回転糸切りされる。7は判読不明だが墨書される。

時期は9世紀前半に位置づけられよう。

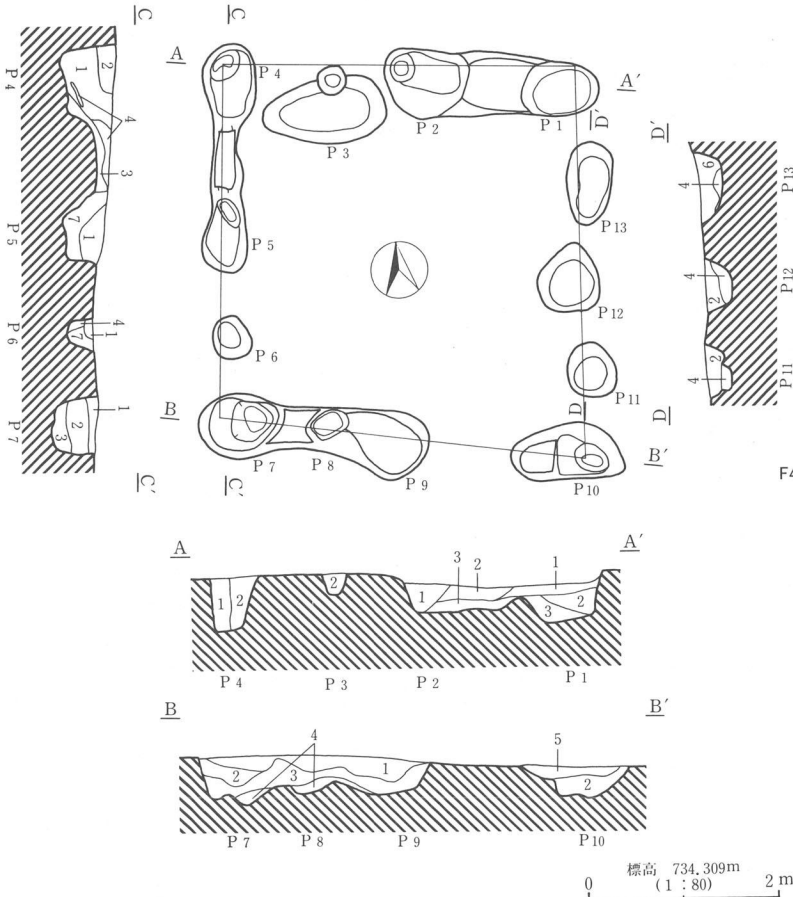


第126図 H43号住居址出土遺物実測図

2、掘立柱建物址

1) F43号掘立柱建物址

II地区2次調査地点の南端にあり、Sえー7グリットにある。東西372cm南北400cmで2間×3間の南北棟の掘立柱建物址である。砂質で遺構の検出が難しく、そのためかやや不揃いな掘立柱建物址である。3カ所で柱穴が連結する溝持ちである。ピットの計測値はさまざまである。主軸方位はN-5°-Eを指す。



F43土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂利層
2. 黒褐色土層 (10YR 2/2) ロームブロック・黒色土ブロック・バミス粒含む
3. 黒色土層 (10YR 2/1) ロームブロックとの混合層
4. 褐色土層 (10YR 4/4) ロームに黒色土含む
5. 褐色土層 (10YR 4/6) ローム主体。
6. 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム・バミス含む。

第127図 F43号掘立柱建物址実測図

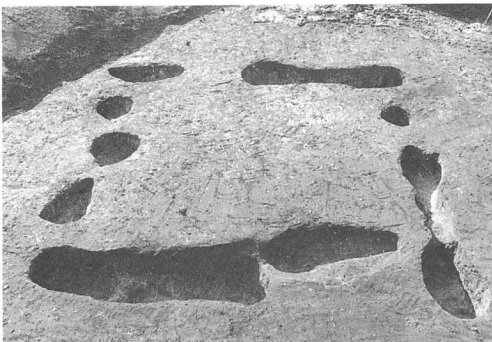
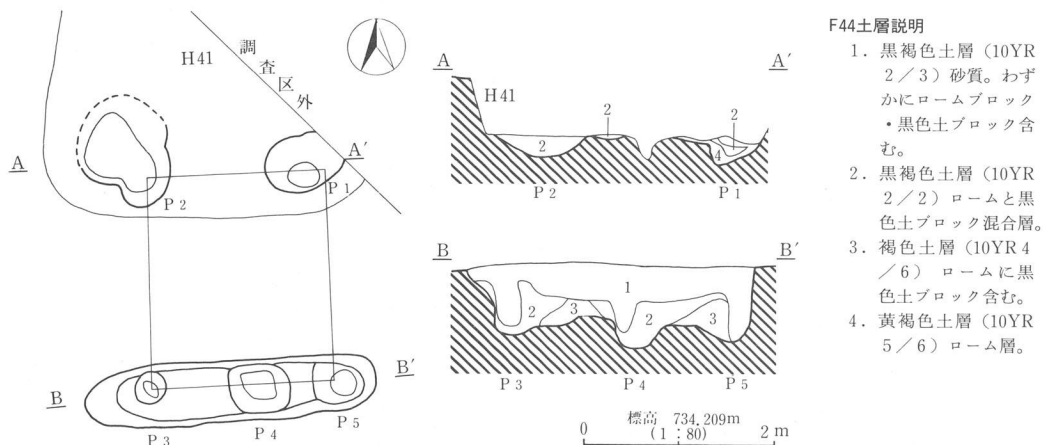


写真273 F43号掘立柱建物址(北より)

2) F44号掘立柱建物址

II地区中央南のSカー6グリットにある。北側の柱穴はH41号住居址に切られて、下面だけがわずかに残っている。東西200南北220cm、2間×1間の掘立柱建物址である。6本柱の3本が東南に連続する溝持ちである。



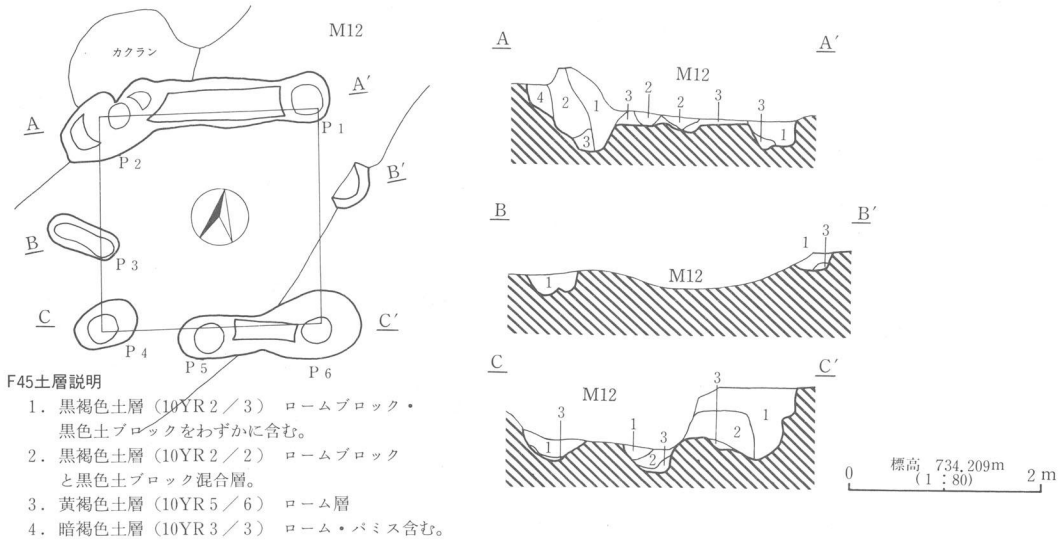
第128図 F44号掘立柱建物址実測図



写真274 F44号掘立柱建物址 (北より)

3) F45号掘立柱建物址

II地区二次調査区にあり、Sく-6グリットにある。M12号溝状遺構に切られている。東西200cm南北240cmの2間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。主軸方位はN-10°-Wを指す。柱穴は長径で40~68cm、深さ64~92cmを測る。P1・P2、P5・P6は溝持ちである。



第129図 F45号掘立柱建物址実測図



写真275 F45号掘立柱建物址 (南より)